

妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』翻刻と解題（6）

寺津 麻理絵・関口 静雄

〔解題 6〕『妙極堂遺稿』収録の寺記・縁起類について

『妙極堂遺稿』七巻七冊に収録された寺記・縁起類の中で最も製作年代が早いのは「一乗山瀧谷寺縁記」（巻一収録）で、それは寛彦浄嚴が十九歳のときの明暦三年（一六五七）に、越前栖原里の中村長兵衛の再三の依頼を受けて草した、聖徳太子・明恵高弁上人ゆかりの越前国一乗谷瀧谷寺の縁起である。同年は郷里の河内国鬼住村から高野山の衆に加わり学侶に交を結んだ年である。

年若い僧に、それも近郷からではなく遠い越前からの依頼であることから、このころすでに浄嚴の文才が広く知られていたことは勿論、『遺稿』には収録されていないが、この時点で浄嚴は相当数の縁起類を求めに応じて作成していたはずで、それは寺院の正縁起たる、格を備えたものであったことが高い評価を得ていたと推量される。

瀧谷寺をめぐるのは、『遺稿』巻七の貞享二年（一六八五）条に「和_{ニシテ}越之前州瀧谷寺ノ慶範師ノ韻_ヲ兼_テ餞_ニ別_ス北越ノ之_ニ帰_ニ三月初八」とあり、浄嚴門下であった春深慶範が越前に帰るときに餞別として詠んだ詩文が収録されていることから、「一乗山瀧谷寺縁記」を贈ったことをきっかけとして、以降も瀧谷寺との浅からぬ交流が続いていたようである。慶範（一六三五―一六九九）は元禄三年（一六九〇）四月六日、靈雲寺道場において浄嚴より安流の許可を受け、後に柳沢吉保の外護を受けて柳沢公の邸宅裏に智宝庵

福勝院を構え、徳川五代將軍徳川綱吉に謁見して祈禱を勤修するなど、浄嚴門下では慧光と比肩する実力者であり、瀧谷寺十八世や京都智積院の長老を務めた人である。

また、巻四の寛文四年（一六六四）条に収録される「高台山楞嚴寺記」は、奈良時代に白山を開き、「越の大徳」と称された泰澄が養老元年（七一七）に開山した楞嚴寺の縁起である。同寺は室町戦国時代に足利尊氏や朝倉家の祈願所となったことにより整備が整い、配下十七坊と末寺三十六カ寺百二十坊を擁する一大寺院となったが、天正のころ織田信長の討伐により伽藍宝仏類は悉く灰塵に帰した。江戸時代には福井藩主や粕氏の帰依を受けたが、明治から昭和の初めにかけては無住になるなど、かつての繁栄は戻ることなく現在に至っている。

この「高台山楞嚴寺記」の末文には「年移_リ星回_テ造営不_レ畢_ヘ口惜_ニ王侯ノ不_レ遊又憤_ニ勝域ノ之無_{コトヲ}記故書_ニ其ノ慨_ヲ以貽_ニ同志_ニ云」とあるように、勝場の古刹である楞嚴寺に縁起が無いことを憤って寺記を草したのであるが、浄嚴が寺記・縁起類をいかに重要視していたかを窺い知ることができる。このような一文は、巻六収録の「牛尾山法嚴寺実録」の末文に「予恐_ニ後世失_ニ其ノ伝_ヲ故書_ニ」とあり、また同巻「撰州尊鉢里多羅山若王寺縁起」に「今歎_テ旧籍之遭_ニ兵燹_ニ且_ク録_ニ先志ノ之所_ニ曾_テ伝_{ヘシ}」とあるなど随所に見られるのだが、これはひとえに寺社の縁起類が失われることを危惧し、たとえ一紙一行でも後世に遺そうという、行く末を案じ

での行動であり、楞嚴寺の盛衰を思えば、浄嚴の慧眼と短時日にして縁起を草することのできた学識の高さが知られるのである。

巻七の天和二年（一六八二）条に収録される「播州印南郡平庄報恩寺之記」の印南山報恩寺は、浄嚴の甥で高弟の惟宝蓮体撰『浄嚴大和尚行状記』によれば、南都西大寺末の律院であったが、叡尊の遺風虚しく「近代其風荒廢シテ律儀ヲ知ル者ナシ」と伝えるような悲惨な状態であった。浄嚴は寺僧に勧めて菩薩戒を授け、酒肉五辛門に入るべからずの標を立てるなどして整備を進め再興を果たしたのである。延宝五年（一六七七）にはここで普門品を講じ、日に五、六万人の善男善女たちが集ったと伝えられている。「報恩寺之記」はそうした報恩寺の再興活動の一環として記されたと考えられる。

巻六の延宝六年（一六七八）条に収録される「泉州補陀落山ノ記」は、その添文によれば、讃州善通寺誕生院主宥謙の招きに応じた浄嚴が自坊の河内薬樹山延命寺を発ち、同年三月二十八日、途中の大阪の旅館で草したもので、行基菩薩や弘法大師ゆかりの泉州大鳥郡和田谷の補陀落山放光寺にみずから足を運んで見聞した縁起や寺域、子院旧跡などが記されている。浄嚴の足音や息遣いが生々しく感じられ、旅先・訪問先でも体を休めることなく寸暇を惜しみ、机に向かい筆をとる一人の僧の姿がそこにあり、そしてそれが浄嚴の日常であったのだと察せられる。記録の後半では、浄嚴がかねてより菩薩戒の苾芻儀然大徳が継興した放光寺の近隣に住まう田夫野童が誦経し、農翁織婦が称名を常としていることを耳にしてはいたものの、実際にその様子を目の当たりにし、孔子の「君子居之、何陋之有」（君子これに居らば、何の陋しきことやらん）の一文を引用し、優れた師がいればおのずと周りもよくなるものだと感じ、みずからの愚陋を恥じたと記している。すでに徳風を認められ、各地を飛び回り教化活動をおこなっていた浄嚴に強い衝撃を与えただろうこの逸事は、このころ宗派を超えて日本仏教界を席卷した近世戒律復興運動への決意を新たにさせたに相違

なく、後に、自らが提唱した如法真言律の道場となる江戸宝林山靈雲寺の創建へと繋がって行くのである。

なお、巻六の天和元年（一六八一）の条に収録の「讃州多度郡漫荼羅寺記」は同寺の現住宥盛阿闍梨の求めに応じて草されたもので、「香川叢書」（第一集）に全文の翻刻と概要が載っている。それによれば現在も卷子装に整えられて同寺に伝えられているが、原文は無点のようである。

こうした縁起類の作成にあたっては、いくばくかの謝礼が発生したと想像されるが、浄嚴の性質と行実を想えば、過分の謝礼は固辞したはずで、仮に受けたとしても、それは料紙代等の実費であつたろう。そのことは、蓮体が『行状記』の末尾に付した「浄嚴大和尚靈徳記」や「平生雅訓十七条」などに記しているように、授戒や真言印契、血脈を授ける際には一粒半銭の報施といえども受け取らなかったこと、両界曼荼羅などの仏版を印施したときには、受者は紙墨の実費のみの支払いとしていたのであり、金銭よりはむしろ日課真言の契約や持律持戒を固く誓約させるなどに重きを置いていたのである。

◇『妙極堂遺稿』七巻七冊収録「寺記・縁起類一覽」

01 明暦三年（一六五七・十九歳）「一乗山瀧谷寺縁記」（巻二）

是歳。越前栖原里の中村長兵衛の再三の懇懇によって聖徳太子・明恵高弁上人ゆかりの越前一乗谷瀧谷寺の縁起を草す。

02 明暦三年（一六五七・十九歳）「金剛山記」（巻二）

是歳。河内金剛山の縁起梗概を草し、末尾に詩一篇を付す。

03 寛文四年（一六六四・二十六歳）「内州錦県河合寺縁起」（巻四）

是歳。河内河合寺縁起を草す。

04 寛文四年（一六六四・二十六歳）「相州藤沢郷海見山草海寺観正院略記（即席）」（巻四）

三月。相州藤沢観正院略記を創建者松下八太夫源正直の求めに応じて

即席に草す。

05 寛文四年（一六六四・二十六歳）「高台山楞嚴寺記」（巻四）

是歳。縁起無きを憤り、越前高台山楞嚴寺記を草し、後世の同志に貽さんとす。

06 寛文九年（一六六九・三十一歳）「但州美含郡竹野郷荊木山縁起」（巻五）

三月上旬。但州竹野の荊木山縁起を草す。

07 寛文十年（一六七〇・三十二歳）「補陀落山祇園寺縁起」（巻五）

六月二十七日。南山寓住の沙門澹然に代って、備中の祇園寺縁起を草す。

08 寛文十一年（一六七一・三十三歳）「和州葛上郡千光山慈眼寺之記」（巻五）

是歳。和州慈眼寺之記を草す。

09 寛文十三年（一六七三・三十五歳）「牛尾山法嚴寺実録」（巻六）

是歳。京都牛尾山法嚴寺実録および同寺興建幹縁疏を草す。

10 寛文十三年（一六七三・三十五歳）「阿州勝浦郡靈鷲山ノ記」（巻六）

是歳。阿州勝浦郡靈鷲山鶴林寺の縁起を草す。

11 寛文十三年（一六七三・三十五歳）「聖尊感応」（巻六）

是歳。阿州勝浦郡靈鷲山鶴林寺の地藏菩薩の靈験を記す。

12 延宝元年（一六七三・三十五歳）「播之美葱郡吉川谷吉祥寺記」（巻六）

是歳。播州法花山吉祥寺記を草す。

13 延宝六年（一六七八・四十歳）「泉州補陀落山ノ記（竪百五十歩横百八十余歩）三月二十八日於大坂旅館作」（巻六）

三月二十八日。讃州への旅中、大坂の旅館で泉州大鳥郡和田谷の補陀落山放光寺記を草す。

14 延宝六年（一六七八・四十歳）「播陽金藏寺ノ記」（巻六）

是歳。播州多可郡松井莊の帰見山金藏寺記を草す。

15 天和元年（一六八一・四十三歳）「讃州多度郡漫茶羅寺記」（巻六）

六月。讃州多度郡漫茶羅寺の現住有盛阿遮梨の求めに應じて寺記一卷

を草す。

16 天和元年（一六八一・四十三歳）「摂州尊鉢里多羅山若王寺縁起」（巻六）

十月。摂州尊鉢里の多羅山若王寺縁起を草す。

17 天和二年（一六八二・四十四歳）「播州印南ノ郡平ノ庄報恩寺ノ之記」（巻六）

十二月。播州報恩寺之記を草す。

18 貞享元年（一六八四・四十六歳）「和州添下郡般若窟之記（応宝山湛海師之求也）」（巻七）

是歳。生駒宝山寺湛海の需めに応じ、般若窟之記を草す。

（寺津麻理絵）

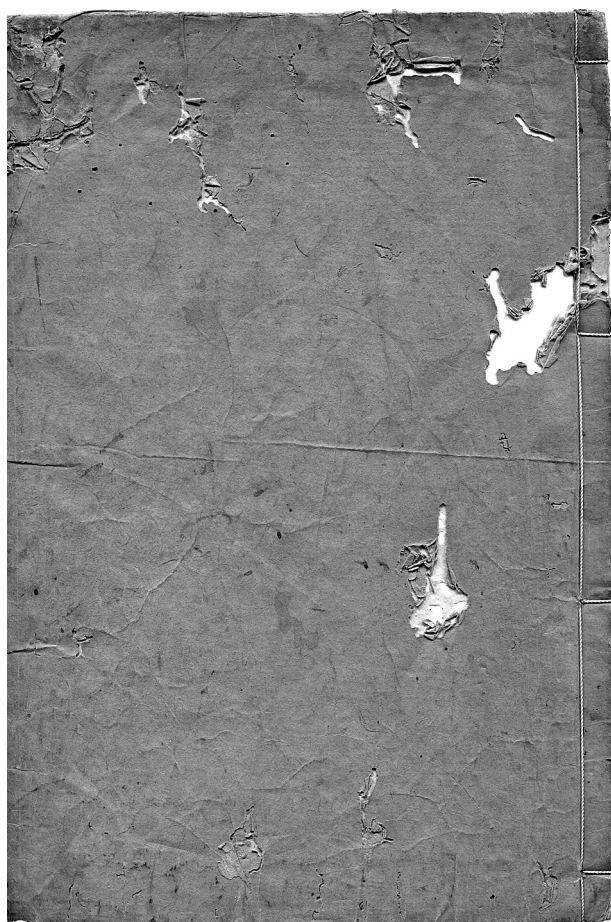
〔追記〕

画像処理・翻刻文作成について次の諸氏の助力を得た。御礼申し上げる。

- ・岩城佑希（大学院生活機構研究科生活文化研究専攻二年）
- ・岡本夏奈（同一年）・宇治かおる（歴史文化学科三年）・鈴木香菜（同）
- ・高橋花乃（同）・寺田晃奈（同）・永井佑季（同）・柳木真央（同）
- ・竹村佳奈（初等教育学科三年）

【翻刻凡例】

- 1 妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』（写本、全七冊）の第六冊目巻之六を翻刻する。渋茶色紙表紙、袋綴装、縦二七九mm・横一八五mm。
- 2 原則として通行の文字表記を用いて翻刻した。
- 3 行取・清濁・誤字・宛字は底本のままに翻刻し、改丁は「⑥01オのように示した。
- 4 踊字・繰返符号は二字分までは底本のままとし、それ以上は通行の表記に改めた。
- 5 訂正・削除・後補等の指示がある時はそれに従い、後補挿入した文字には、「妙」のように傍点を付した。
- 6 韻文には適宜空格を施した。
- 7 判読不能の箇所は□で示した。



└
⑥表表紙

妙極堂遺稿卷之六

侍者僧某等編錄

寬文十三癸丑年行年三十五

大般若經募緣疏

夫一如之道易迷三毒之醉難醒故一切衆生無始已來輪轉三界沉淪八苦解脫之時日增遠矣覺悟之曉何以待焉是以我大慈父能仁世尊垂應迹於五濁亂漫之國土勵救濟於六道流浪之有情六舟三駕則度越苦海之船筏五時八教則開示迷途之明燈也所謂初頓花嚴猶日照高山唯是上根大機

妙極堂遺稿卷之六

侍者僧某等編錄

寬文十三癸丑年行年三十五

大般若經募緣疏

夫一如之道易迷三毒之醉難醒故一切衆生無始已來輪轉三界沉淪八苦解脫之時日增遠矣覺悟之曉何以待焉是以我大慈父能仁世尊垂應迹於五濁亂漫之國土勵救濟於六道流浪之有情六舟三駕則度越苦海之船筏五時八教則開示迷途之明燈也所謂初頓花嚴猶日照高山唯是上根大機

(白丁)

⑥表表紙見返

⑥01才

之所能領解雖然無不一乘下種之妙因第二阿含廣為人天二乘之因果為衆生易解之權巧方等生蘊為大乘之初門故能四教並談別大小之勝劣辨偏圓之頓漸捨淺就深離低赴高大乘般若波羅蜜之教如熟蘊之倍融妙窮諸法實相之極際開畢竟皆空之堂奧是故為衆經中王世間之父經中佛自言假使有人供養恭敬此般若波羅蜜比前功德百千萬倍何以故一切諸佛般若波羅蜜以為師父得於三十二相八十種好乃至無量相好故取意又云

之所能領解雖然無不一乘下種之妙因第二阿含廣為人天二乘之因果為衆生易解之權巧方等生蘊為大乘之初門故能四教並談別大小之勝劣辨偏圓之頓漸捨淺就深離低赴高大乘般若波羅蜜之教如熟蘊之倍融妙窮諸法實相之極際開畢竟皆空之堂奧是故為衆經中王世間之父經中佛自言假使有人供養恭敬此般若波羅蜜比前功德百千萬倍何以故一切諸佛般若波羅蜜以為師父得於三十二相八十種好乃至無量相好故取意又云

般若波羅蜜其德無等無上最勝尚勝充滿一閻浮提舍利威力譬如負債人若有親近國王供給左右債主還恭敬供養負債人負債人不復怖畏所以者何此人依近國王憑恃有力故般若如王舍利如負債人取意依智論說恭敬供養禮拜讀誦般若波羅蜜善男子善女人所得功德略說有二十一種一者堅牢地神常恒守護二者一切夜叉諸惡鬼神非人等不得其便三者魔王魔民不能障礙四者此人免離九種橫死一得病無醫二王法誅戮三非人奪山崖八毒藥呪九飢渴所用五者轉重輕受六者若入軍陳刀箭

般若波羅蜜其德無等無上最勝尚勝充滿一閻浮提舍利威力譬如負債人若有親近國王供給左右債主還恭敬供養負債人負債人不復怖畏所以者何此人依近國王憑恃有力故般若如王舍利如負債人取意依智論說恭敬供養禮拜讀誦般若波羅蜜善男子善女人所得功德略說有二十一種一者堅牢地神常恒守護二者一切夜叉諸惡鬼神非人等不得其便三者魔王魔民不能障礙四者此人免離九種橫死一得病無醫二王法誅戮三非人奪山崖八毒藥呪九飢渴所用五者轉重輕受六者若入軍陳刀箭

矛鎗不能傷害何況失命七者種種毒藥不能沮壞八者咒詛厭蠱還著本人九者設墮火坑火不能燒十者設遭洪水不能漂溺十一者怨賊王難皆悉解脫十二者四百四病能得消滅十三者譬如如意寶珠能愈癩病此經又能除愈癩病何以故除其宿世重罪業障故消滅身癩心癩二種重病故十四者十方無量阿僧祇耶世界之中諸天善神皆以衛護十五者釋提桓因與阿修羅共鬪戰時誦此般若必得勝利十六者一切諸天五衰相現當墮惡道誦此般若還生本處十七者若有官事當加譴責若有誦誦

般若王臣吏卒還生愛敬歡喜問訊十八者一切外道諸仙等依此般若所為呪術得大靈驗十九者佛說般若之時有諸外道欲破佛法來詣佛所釋提桓因即誦般若外道師等捨離憍慢禮佛而去二十者此人不墮三惡趣中亦復不生人中貧窮下賤工師除廁擔屍等家常生尊貴財貨豐足人所歸敬六根完具相好端嚴人所愛憐一切所願當得如意二十一者此人捨此身後速詣淨土蓮花化生三十二相具足圓滿入十方界化諸有情乃至證得無上菩提取意又經云二百佛言舍利弗我滅度後後五百歲

矛鎗不能傷害何況失命七者種種毒藥不能沮壞八者咒詛厭蠱還著本人九者設墮火坑火不能燒十者設遭洪水不能漂溺十一者怨賊王難皆悉解脫十二者四百四病能得消滅十三者譬如如意寶珠能愈癩病此經又能除愈癩病何以故除其宿世重罪業障故消滅身癩心癩二種重病故十四者十方無量阿僧祇耶世界之中諸天善神皆以衛護十五者釋提桓因與阿修羅共鬪戰時誦此般若必得勝利十六者一切諸天五衰相現當墮惡道誦此般若還生本處十七者若有官事當加譴責若有誦誦

般若王臣吏卒還生愛敬歡喜問訊十八者一切外道諸仙等依此般若所為呪術得大靈驗十九者佛說般若之時有諸外道欲破佛法來詣佛所釋提桓因即誦般若外道師等捨離憍慢禮佛而去二十者此人不墮三惡趣中亦復不生人中貧窮下賤工師除廁擔屍等家常生尊貴財貨豐足人所歸敬六根完具相好端嚴人所愛憐一切所願當得如意二十一者此人捨此身後速詣淨土蓮花化生三十二相具足圓滿入十方界化諸有情乃至證得無上菩提取意又經云二百佛言舍利弗我滅度後後五百歲

東北方國善男善女等能於此經受持誦誦三拜供養如說修行抄大聖懸記誠哉我等當澆季之濁濫生扶桑之邊鄙幸蒙聖朝無為之德化遭般若最勝之妙典一失人身万劫正得此度不勵後悔何益因茲欲於此常樂寺安置大般若經將來成轉讀之淨善增益藥師如來之威光上祈金輪聖主之寶祚下饒天下万民之威福於是就洛陽書肆求覓摺寫經王價直鉅大資財微薄是故勸誘十方有信之道俗請乞隨力施與之助緣願求一塵崇微一滴深湖殊冀篤信縑素與力同心抑又藥師如來十二大

願救脫像法轉時衆生七千葉又摧滅煩惱結使怨敵挑七層輪燈則七難忽消除造五色綵幡則五苦速解脫專念稱讚則已盡壽命猶得增益至心歸信則九種災橫未然消散況一切其耳之小因被衆病悉除之巨益乎凡其妙應山毫地墨所不能記就中此尊遠雖東方瑠璃界之教主近則南閩浮提州之導師是故南州空一顯色即彰吹瑠璃之色云佛云法彼此相應感應何空謹疏寬文十三年正月日

三十三處巡禮三十三度供養漫茶羅供表白夫兩部曼荼之密壇者妙雲閣塔紹繼薩埵家業於

東北方國善男善女等能於此經受持誦誦三拜供養如說修行抄大聖懸記誠哉我等當澆季之濁濫生扶桑之邊鄙幸蒙聖朝無為之德化遭般若最勝之妙典一失人身万劫正得此度不勵後悔何益因茲欲於此常樂寺安置大般若經將來成轉讀之淨善增益藥師如來之威光上祈金輪聖主之寶祚下饒天下万民之威福於是就洛陽書肆求覓摺寫經王價直鉅大資財微薄是故勸誘十方有信之道俗請乞隨力施與之助緣願求一塵崇微一滴深湖殊冀篤信縑素與力同心抑又藥師如來十二大

願救脫像法轉時衆生七千葉又摧滅煩惱結使怨敵挑七層輪燈則七難忽消除造五色綵幡則五苦速解脫專念稱讚則已盡壽命猶得增益至心歸信則九種災橫未然消散況一切其耳之小因被衆病悉除之巨益乎凡其妙應山毫地墨所不能記就中此尊遠雖東方瑠璃界之教主近則南閩浮提州之導師是故南州空一顯色即彰吹瑠璃之色云佛云法彼此相應感應何空謹疏寬文十三年正月日

三十三處巡禮三十三度供養漫茶羅供表白夫兩部曼荼之密壇者妙雲閣塔紹繼薩埵家業於

南印之朝、遍照擲杵、流演遮那、乘教于東扶之國、已降直入直修之遺風、廣扇八紘、頓圓頓證之玄門、宏闡四城、至如四重、聖尊凝妙相、而森列八供、定妃擊供器、而駢羅一體三自己、非齒接之境、界二乘十地、亦復絕離之分域、是故授擇上上決定信解、許以空、空無著、心智誠是密藏深玄、不可翰墨、大聖權施難、輒以設圖繪巧妙、為成梯磴、劣慧愚鈍、易誠速解、況復纔臨密壇、離恒沙障、疾證妙果、一見曼荼、經萬億劫、不入惡道、所謂上求菩提、勝因下化衆生、大利莫上乎斯、莫大乎焉、抑又觀自在尊者、尋本則正法明

如來法身四德果滿之尊位、言迹則施無畏菩薩如幻三昧、因陀之大聖、入重玄門、月光潔影于渴仰心之水、普門示現花色散香于功德林之梢、普現色身利益迴超、諸尊羣類引攝、方便誠過衆聖、爰弟子某甲誤依前業薄福之因、雖受今世孤露之身、幸生正法流布之世、得聞大聖利物之益、悲猶有餘、喜又不足、因茲運步三十三之勝嶺、以仰當來之值遇、累度三十三之遍數、以果現今之求願、於是扣十方縑素之門、戶募微少錢財之資緣、開兩部曼荼、展開眼供養之梵筵、奉大士尊容、備飲食茶湯之禮奠、仰願同

南印之朝、遍照擲杵、流演遮那、乘教于東扶之國、已降直入直修之遺風、廣扇八紘、頓圓頓證之玄門、宏闡四城、至如四重、聖尊凝妙相、而森列八供、定妃擊供器、而駢羅一體三自己、非齒接之境、界二乘十地、亦復絕離之分域、是故授擇上上決定信解、許以空、空無著、心智誠是密藏深玄、不可翰墨、大聖權施難、輒以設圖繪巧妙、為成梯磴、劣慧愚鈍、易誠速解、況復纔臨密壇、離恒沙障、疾證妙果、一見曼荼、經萬億劫、不入惡道、所謂上求菩提、勝因下化衆生、大利莫上乎斯、莫大乎焉、抑又觀自在尊者、尋本則正法明

如來法身四德果滿之尊位、言迹則施無畏菩薩如幻三昧、因陀之大聖、入重玄門、月光潔影于渴仰心之水、普門示現花色散香于功德林之梢、普現色身利益迴超、諸尊羣類引攝、方便誠過衆聖、爰弟子某甲誤依前業薄福之因、雖受今世孤露之身、幸生正法流布之世、得聞大聖利物之益、悲猶有餘、喜又不足、因茲運步三十三之勝嶺、以仰當來之值遇、累度三十三之遍數、以果現今之求願、於是扣十方縑素之門、戶募微少錢財之資緣、開兩部曼荼、展開眼供養之梵筵、奉大士尊容、備飲食茶湯之禮奠、仰願同

心道俗誇福壽無量之樂結緣老少脫種種惡趣之苦觀夫高山後時七覺之德樹交柯長川前注三密之法流揚波乃至鐵圍沙界平等拔濟有頂無間普皆廻向敬白

同諷誦文

夫惟娑婆有緣大士雖多觀自在者之德維馨適化無方鉅益不少心念不空之誓誠深加施三十三身也一門之普門包四智於性身一十九說也理界之理德統十利於金剛顯密之談旨雖殊本迹之法體惟同粵信心弟子某甲凝丹心仰真應運步三十三

心道俗誇福壽無量之樂結緣老少脫種種惡趣之苦觀夫高山後時七覺之德樹交柯長川前注三密之法流揚波乃至鐵圍沙界平等拔濟有頂無間普皆廻向敬白

同諷誦文

夫惟娑婆有緣大士雖多觀自在者之德維馨適化無方鉅益不少心念不空之誓誠深加施三十三身也一門之普門包四智於性身一十九說也理界之理德統十利於金剛顯密之談旨雖殊本迹之法體惟同粵信心弟子某甲凝丹心仰真應運步三十三

處合素願禮聖像屈指三十三度遂使延延六和敬之僧伽作梵讚梵唄之佛事供養兩部界之曼荼展殊勝殊妙之法筵是則所資則懇々之同志不擇緇白貴賤所求則微々與力無簡絲毫銖錢既而積少施成大功已齊點塵之累巨嶽展少雲遍大虛遠同星火之盡千界然乃四輩檀越成辨二世之勝願十界含靈圓滿三身之妙德仍所請諷誦如件寬文十三年二月十七日敬白

八幡大神影贊 應米田八郎左衛門需

韜默圓明性淨光化龍一夜入扶桑傍人借問壁間

處合素願禮聖像屈指三十三度遂使延延六和敬之僧伽作梵讚梵唄之佛事供養兩部界之曼荼展殊勝殊妙之法筵是則所資則懇々之同志不擇緇白貴賤所求則微々與力無簡絲毫銖錢既而積少施成大功已齊點塵之累巨嶽展少雲遍大虛遠同星火之盡千界然乃四輩檀越成辨二世之勝願十界含靈圓滿三身之妙德仍所請諷誦如件寬文十三年二月十七日敬白

八幡大神影贊 應米田八郎左衛門需

韜默圓明性淨光化龍一夜入扶桑傍人借問壁間

像道是第十六、聖皇

菅神像贊

炳煥輝耀千古、萬古道德是仰、文章惟祖、出羣拔衆、
過龍邁虎、何為苟且、王事靡盬、

牛尾山法嚴寺實錄

東限近江州 南限大峯頂、
西限溪水 北限大谷、

夫寂光闍域、毘盧會場、身土感應、不得別異、是故有
身則有土有感、則有應寔、夫不空焉、洛京之東、宇治
之北、有山名曰音羽、縱橫凡八九里、脩嶺尖峯、以十

像道是第十六、聖皇

菅神像贊

炳煥輝耀千古、萬古道德是仰、文章惟祖、出羣拔衆、
過龍邁虎、何為苟且、王事靡盬、

牛尾山法嚴寺實錄

東限近江州 南限大峯頂、
西限溪水 北限大谷、

夫寂光闍域、毘盧會場、身土感應、不得別異、是故有
身則有土有感、則有應寔、夫不空焉、洛京之東、宇治
之北、有山名曰音羽、縱橫凡八九里、脩嶺尖峯、以十

而數、其中之尤者、曰之牛尾、東距石山、一十餘里、南
阻醍醐、六七許里、地遂深、則遠隔市闐、境絕僻、則時
見送迎、峯巒險峻、衝天薄漢、溪壑宏深、歛霧蒸烟、紅
花後開、也則青春添驛客、之詩軸、素雪先零、也則玄
冬戒老僧之禪衲、神龍之噴氣、也為行雲、兮為行雨、
珍禽之下、也發新聲、兮奏新曲、楓映夕陽、則駐遊
人之轡、松陵歲寒、則彰烈士之節、泉滴脉々、綴綠
珠、乍散碧玉、谿流澗々、或走青蛇、或躍金鱗、地匪匡
廬、靈仙禪客宅、之卜之瀑、曰音羽、詞人才士賦之咏、
之斯澗流、也則清水飛泉之根源也、里諺稱曰、自是

而數、其中之尤者、曰之牛尾、東距石山、一十餘里、南
阻醍醐、六七許里、地遂深、則遠隔市闐、境絕僻、則時
見送迎、峯巒險峻、衝天薄漢、溪壑宏深、歛霧蒸烟、紅
花後開、也則青春添驛客、之詩軸、素雪先零、也則玄
冬戒老僧之禪衲、神龍之噴氣、也為行雲、兮為行雨、
珍禽之下、也發新聲、兮奏新曲、楓映夕陽、則駐遊
人之轡、松陵歲寒、則彰烈士之節、泉滴脉々、綴綠
珠、乍散碧玉、谿流澗々、或走青蛇、或躍金鱗、地匪匡
廬、靈仙禪客宅、之卜之瀑、曰音羽、詞人才士賦之咏、
之斯澗流、也則清水飛泉之根源也、里諺稱曰、自是

而下至音羽里絶而無水唯沙磧耳蓋潰流地下而
出清水之下也山東山西同曰音羽是此之田矣嗚
呼睿叟遺履鎮師認蹤良不漫施矣初光仁帝寶龜
九年四月沙門延鎮有夢事沂波川而行之見一支
派有黃金色鎮行窮水源有一飛瀑側有草菴今之清水
寺是白衣老僧居之鎮問住此幾年姓名為誰答曰
吾名行睿隱處斯地已二百歲常持千手大悲神呪
吾待汝者久今果來也我有東州之行未果汝且代
我棲遲于此地又好建練若乃指庭前株栢曰我
以是擬大悲像材吾若遲歸汝先營之言已向東而

也小山之邑有覺念之者世為里正一夕夢白晷之
翁謂念曰我降化于牛尾之已久以殿閣火之故移
于棲閑寺之內殿子為我設還歸之計念翌日投于
彼徒遍諗夢事有一耆宿矍然而曰我亦宿夢猶子
之言何其一夢兩感合符節乎則聚諸徒啓于殿扉
慈容儼然亦一奇也念傾私庫兼募眾緣營構再新
庶民子來頓復舊制是乃驅七聚落之士女與而歸
念之家寢成鉅富仕宦者眾孫子奕葉執信投贊捨
田施地之者不為不多予恐後世失其傳故書

同寺興建幹緣疏

而下至音羽里絶而無水唯沙磧耳蓋潰流地下而
出清水之下也山東山西同曰音羽是此之田矣嗚
呼睿叟遺履鎮師認蹤良不漫施矣初光仁帝寶龜
九年四月沙門延鎮有夢事沂波川而行之見一支
派有黃金色鎮行窮水源有一飛瀑側有草菴今之清水
寺是白衣老僧居之鎮問住此幾年姓名為誰答曰
吾名行睿隱處斯地已二百歲常持千手大悲神呪
吾待汝者久今果來也我有東州之行未果汝且代
我棲遲于此地又好建練若乃指庭前株栢曰我
以是擬大悲像材吾若遲歸汝先營之言已向東而

也小山之邑有覺念之者世為里正一夕夢白晷之
翁謂念曰我降化于牛尾之已久以殿閣火之故移
于棲閑寺之內殿子為我設還歸之計念翌日投于
彼徒遍諗夢事有一耆宿矍然而曰我亦宿夢猶子
之言何其一夢兩感合符節乎則聚諸徒啓于殿扉
慈容儼然亦一奇也念傾私庫兼募眾緣營構再新
庶民子來頓復舊制是乃驅七聚落之士女與而歸
念之家寢成鉅富仕宦者眾孫子奕葉執信投贊捨
田施地之者不為不多予恐後世失其傳故書

同寺興建幹緣疏

夫惟三世、勃歇應物之善巧紅紫異色、過恒、索多利
生之妙權濃淡分味、能引之門雖多、說法方便惟最
雖言六塵各有說法諸塵之中、聲塵誠為尤、況復
此土有儒耳根最利是、故能以世尊以善巧智應周
諸趣、言音演說種種性、欲所宜聞法、破裂疑網、開
照門、如是無量法聲無邊、言教悉皆無非、觀自在者
之三昧、因茲娑婆世界之中、為施無畏者、仰之
為我大慈父、是乃普門示現、三業鉅益遍被、二十三
種之根緣、一心稱名、衆機類音頓脫、三毒七難之苦
患、至如夫、戒日大王隨聞記云西國戒日王於十八
日敬觀音得為帝王為報恩每

去過期、至返鎮出菴、尋求不能相見、一日到此嶺上
翁之履、在鎮竊念、行睿居士則大悲之應現、經曰、即
現居士此其是也、斯嶺也則補陀靈巖、即是十方諸
國土無刹不現身之一處也、遺其履者又彰普門示
現之迹耳、即開榛莽、創造梵宇、以法嚴名之、孫伽之
自在尊為蓋示大士有緣之勝崛也志賀之舊都、有
法部主也蓋示大士有緣之勝崛也志賀之舊都、有
千眼大士不動明王多聞天王之像、御刻雕也、鎮
得而安之鎮延曆年中、遇鎮守府將軍坂田村麿、謀
而建清水寺、至今清水寺、使時、詣此、此寺、曰清
水之奧院、
誦經修法、云、空海和尚經由之次、一來玄覽林壑之

夫惟三世、勃歇應物之善巧紅紫異色、過恒、索多利

生之妙權濃淡分味、能引之門雖多、說法方便惟最
雖言三六塵各有說法諸塵之中、聲塵誠為尤、況復
此土有情耳根最利是、故能以世尊以善巧智一心同
諸趣、言音演說種種性、欲所宜聞法、破裂疑網、開
照門、如是無量法聲無邊、言教悉皆無非、觀自在者
之三昧、因茲娑婆世界之中、為施無畏者、仰之
為我大慈父、是乃普門示現、三業鉅益遍被、二十三
種之根緣、一心稱名、衆機類音頓脫、三毒七難之苦
患、至如夫、戒日大王隨聞記云西國戒日王於十八
日敬觀音得為帝王為報恩每

去過期、至返鎮出菴、尋求不能相見、一日到此嶺上
翁之履、在鎮竊念、行睿居士則大悲之應現、經曰、即
現居士此其是也、斯嶺也則補陀靈巖、即是十方諸
國土無刹不現身之一處也、遺其履者又彰普門示
現之迹耳、即開榛莽、創造梵宇、以法嚴名之、孫伽之
自在尊為蓋示大士有緣之勝崛也志賀之舊都、有
法部主也蓋示大士有緣之勝崛也志賀之舊都、有
千眼大士不動明王多聞天王之像、御刻雕也、鎮
得而安之鎮延曆年中、遇鎮守府將軍坂田村麿、謀
而建清水寺、至今清水寺、使時、詣此、此寺、曰清
水之奧院、
誦經修法、云、空海和尚經由之次、一來玄覽林壑之

幽賞甚可愛也。適然暫止佳蹟實多持呪穿巖清水
迸出今之關坐盤誦經神人預聽今溪上之誦經巖
德三井圓珍將修如法經會蓋膳寫彼經之法不得
用皮膠於此旁訪得自然之墨藩于此窟中以備其
要須余來止住徒衆循行此法之者分取以具染翰
每歲以爲準也誠惟大士有妙智之尊主法曼之統
領也胡漢大字諸趣言音並皆莫非其三昧而今涌
出達磨亦有之妙墨蓋爲此也中古殿堂增其崇麗
門廡煥乎嚴飾四來學者實歸者多應安之初祝融
作雷堂宇化燼聖像烏有遐邇未嘗不聞之而嗟悼

幽賞甚可愛也。適然暫止佳蹟實多持呪穿巖清水
迸出今之關坐盤誦經神人預聽今溪上之誦經巖
德三井圓珍將修如法經會蓋膳寫彼經之法不得
用皮膠於此旁訪得自然之墨藩于此窟中以備其
要須余來止住徒衆循行此法之者分取以具染翰
每歲以爲準也誠惟大士有妙智之尊主法曼之統
領也胡漢文字諸趣言音並皆莫非其三昧而今涌
出達磨亦有之妙墨蓋爲此也中古殿堂增其崇麗
門廡煥乎嚴飾四來學者實歸者多應安之初祝融
作雷堂宇化燼聖像烏有遐邇未嘗不聞之而嗟悼

十八日設
無遮大會之治國依禱觀音沮渠蒙遜之延壽在歸
此尊慈薊免羅刹之口法力解野火之憂上自王公
太夫下至街童市堅靡不沐恩誰敢間然經云若有
歸依供養禮拜恭敬當免十五種惡死得十五種善
生其惡死者一飢餓困苦死二枷鎖杖楚死三爲怨
家死四軍陣鬪死五虎狼害死六爲毒蛇蜈蚣死七
水火焚漂死八爲毒藥死九蠱毒害死十狂亂失念
死十一崖岸墜落死十二惡人厭魅死十三邪神惡
鬼得便死十四爲惡病死十五非分自害死十五種
善生者一所生之處恒逢善王二生善國三生值好

十八日設
無遮大會之治國依禱觀音沮渠蒙遜之延壽在歸
此尊慈薊免羅刹之口法力解野火之憂上自王公
太夫下至街童市堅靡不沐恩誰敢間然經云若有
歸依供養禮拜恭敬當免十五種惡死得十五種善
生其惡死者一飢餓困苦死二枷鎖杖楚死三爲怨
家死四軍陣鬪死五虎狼害死六爲毒蛇蜈蚣死七
水火焚漂死八爲毒藥死九蠱毒害死十狂亂失念
死十一崖岸墜落死十二惡人厭魅死十三邪神惡
鬼得便死十四爲惡病死十五非分自害死十五種
善生者一所生之處恒逢善王二生善國三生值好

時四常逢善友五身根具足六道心純熟七不犯禁
戒八眷屬和順九財食豐足十他人恭敬十一所有
財寶無被劫奪他人十二所求悉遂十三天龍善神
擁衛十四見佛聞法十五得聞正法悟甚深義已上
其餘厭、魅、呪詛、疫癘、邪祟、毒獸、毒蟲、毒藥、毒毒十惡
五逆四重諸罪皆悉消除皆悉解脫所有勝利不可
勝計矣粵當寺也則延鎮法師開基之勝場千手大
聖降迹之靈輻也草創以後堂宇增壯徒侶繁衍嗟
呼物不常有盛事難再殿閣圯壞門庭蕭然唯餘一
堂耳有一檀主見斯隳廢不忍棄置伐材于林鑿石

於山營構再新方丈食堂煥乎眩觀雖爾佛殿佛塔
輪藏山門未遑興建檀主即世某甲欲繼其志力微
而功大是故周告十方有信之人乞求一涓一塵之
助緣將畢此事伏乞貴賤縉素勦力同心使成斯願
然乃有緣之衆壽筭久保齊喬松之古福德定圓同
鄭陶之昔乃至三有之獄四生之內速登一真之臺
忽入同如之殿年月日

阿州勝浦郡靈鷲山記

佛言舍利子我滅度已後後五百歲彼東北方諸善
男女等得聞我法深生信解已上寔以提樹風扇之

時四常逢善友五身根具足六道心純熟七不犯禁
戒八眷屬和順九財食豐足十他人恭敬十一所有
財寶無被劫奪他人十二所求悉遂十三天龍善神
擁衛十四見佛聞法十五得聞正法悟甚深義已上
其餘厭、魅、呪詛、疫癘、邪祟、毒獸、毒蟲、毒藥、毒毒十惡
五逆四重諸罪皆悉消除皆悉解脫所有勝利不可
勝計矣粵當寺也則延鎮法師開基之勝場千手大
聖降迹之靈輻也草創以後堂宇增壯徒侶繁衍嗟
呼物不常有盛事難再殿閣圯壞門庭蕭然唯余一
堂耳有一檀主見斯隳廢不忍棄置伐材于林鑿石

於山營構再新方丈食堂煥乎眩觀雖爾佛殿佛塔
輪藏山門未遑興建檀主即世某甲欲繼其志力微
而功大是故周告十方有信之人乞求一涓一塵之
助緣將畢此事伏乞貴賤縉素勦力同心使成斯願
然乃有緣之衆壽筭久保齊喬松之古福德定圓同
鄭陶之昔乃至三有之獄四生之內速登一真之臺
忽入同如之殿年月日

阿州勝浦郡靈鷲山記

佛言舍利子我滅度已後後五百歲彼東北方諸善
男女等得聞我法深生信解已上寔以提樹風扇之

處緇白雖靡其德化竺乾猶稀衍門宣傳之國扶桑
日升之微像末尤仰其宗教岨夷獨誇上乘弘通之
地是故名山勝岨往往而在賢聖各垂化迹佛塔僧
寺處處而發天神常事擁衛阿州勝浦郡有一名區
其之為狀也駢大瀧而爭雌雄挺羣山以殊優降東
望則滄溟茫茫河伯之歎將發胸臆蓬壺歷歷徐福
之祠猶在眼睫高岡龍臥伐木之聲更幽列戶鱗聯
爨薪之煙時起西眺則有岑峯鬱律峭壁之半天兮
日落而翳明絕巔之衝雲兮月斜以蔽輝南有大瀧
之嶽神童捨身千古奇蹤猶存智尊卜宅億載神德

維馨北則陰林交柯巨樹互珍禽春囀則王孫遊
而忘歸異詭時敷則詞客爭而寄投然而斯峯屹立
四山之中心像彼耆闍崛之有五山故名曰靈鷲也
又夫大瀧在陽則山自彰智界獨一之儀鷲頭居陰
則地實表理佛含攝之德南則空藏之摩尼同色於
大虛平等之自證推而廣之北則地藏之計都奮威
於衆軍導引之外用攬而可別至如攝威儀而歸平
等分一體以成多身表相似有殊方內鑒終無異途
瑜伽教行于茲蕃衍誠有所以乎哉初曩祖空海大
師應和食明神之指示仰虛空藏尊之靈應躋攀大

處緇白雖靡其德化竺乾猶稀衍門宣傳之國扶桑
日升之微像末尤仰其宗教岨夷獨誇上乘弘通之
地是故名山勝岨往往而在賢聖各垂化迹佛塔僧
寺處處而發天神常事擁衛阿州勝浦郡有一名區
其之為狀也駢大瀧而爭雌雄挺羣山以殊優降東
望則滄溟茫茫河伯之歎將發胸臆蓬壺歷歷徐福
之祠猶在眼睫高岡龍臥伐木之聲更幽列戶鱗聯
爨薪之煙時起西眺則有岑峯鬱律峭壁之半天兮
日落而翳明絕巔之衝雲兮月斜以蔽輝南有大瀧
之嶽神童捨身千古奇蹤猶存智尊卜宅億載神德

維馨北則陰林交柯巨樹互珍禽春囀則王孫遊
而忘歸異詭時敷則詞客爭而寄投然而斯峯屹立
四山之中心像彼耆闍崛之有五山故名曰靈鷲也
又夫大瀧在陽則山自彰智界獨一之儀鷲頭居陰
則地實表理佛含攝之德南則空藏之摩尼同色於
大虛平等之自證推而廣之北則地藏之計都奮威
於衆軍導引之外用攬而可別至如攝威儀而歸平
等分一體以成多身表相似有殊方內鑒終無異途
瑜伽教行于茲蕃衍誠有所以乎哉初曩祖空海大
師應和食明神之指示仰虛空藏尊之靈應躋攀大

瀧念持密軌熏修累日練行彌月遂得寶劍降而立
室內明星飛以入口中悉地于茲成辦般若此時發
揮延曆十七年 綸詔響應 勅州之使君藤原朝
臣木山於大瀧嶽初建伽藍此時大師自一宿居寺
在嶽麓之賀茂村大師自此每日戴星上嶽闕土上
木事日入而還後此創寺号一宿居寺
嶽之次脩坂之半憩息放月此峯有一雙鶴翔
翔嘹唳每日望之日日知此大師意謂彼處須有異
事佗日躬往認尋大樹枝頭有地藏菩薩小像靈鶴
兩翼葦底以擬宮殿防禦風雨雄去則雌護之雌退
則雄覆之于時大師一心祈求唯願尊者哀愍覆護

使大瀧之經營無有違妨不日成之若如願者必須
次於此地建佛塔構精藍弘正法利羣生如是畢而
乃退自余已後自大瀧嶽遊茲瞻禮敬崇雖經途之
多艱未嘗一日而懈也其所歷必濟長川後人其津
渡之處呼為鶴瀨至鶴瀨之經途故有又自一宿
居寺上大瀧之半途必親採花遙嚮茲峯禮拜供養
遂稱其處曰鶴花折當于大瀧營構告成 綸綍再
出使於此嶺草創梵宇大師則卜大樹下始闢基址
得一小鐘至今為大師感悅倍甚此知曾為前聖經
行之梵區宜乎聖尊之彰靈也遂乃伐木于林徵覽

瀧念持密軌熏修累日練行彌月遂得寶劍降而立
室內明星飛以入口中悉地于茲成辦般若此時發
揮延曆十七年 綸詔響應 勅州之使君藤原朝
臣文山於大瀧嶽初建伽藍此時大師自一宿居寺
在嶽麓之賀茂村大師自此每日戴星上嶽闕土上
木事日入而還後此創寺号一宿居寺
嶽之次脩坂之半憩息放月此峯有一雙鶴翔
翔嘹唳每日望之日日知此大師意謂彼處須有異
事佗日躬往認尋大樹枝頭有地藏菩薩小像靈鶴
兩翼葦底以擬宮殿防禦風雨雄去則雌護之雌退
則雄覆之于時大師一心祈求 唯願尊者哀愍覆護

使大瀧之經營無有違妨不日成之若如願者必須
次於此地建佛塔構精藍弘正法利羣生如是畢而
乃退自余已後自大瀧嶽遊茲瞻禮敬崇雖經途之
多艱未嘗一日而懈也其所歷必濟長川後人其津
渡之處呼為鶴瀨至鶴瀨之經途故有又自一宿
居寺上大瀧之半途必親採花遙嚮茲峯禮拜供養
遂稱其處曰鶴花折當于大瀧營構告成 綸綍再
出使於此嶺草創梵宇大師則卜大樹下始闢基址
得一小鐘至今為大師感悅倍甚此知曾為前聖經
行之梵區宜乎聖尊之彰靈也遂乃伐木于林徵覽

能塑畫乃至金銀銅鐵作地藏形像燒香供養瞻禮讚歎是人若處即得十種利益何等為十一者土地豐壤二者家宅永安三者先亡生天四者現存壽益五者求者遂意六者無水火災七者虛耗辟除八者杜絕惡夢九者出入神護十者遇聖因又云佛告虛空藏菩薩諦聽諦聽吾當為汝分別說之若未來世有善男子善女人見地藏形像乃至香花飲食衣服珍寶布施供養讚歎瞻禮得二十八種利益一者天龍護念二者善果日增三者集聖上因四者菩提不退五者衣食豐足六者疾疫不臨七者離水火災八

者無盜賊厄九者人見欽敬十者神鬼助持十一者女轉男身十二者為王臣女十三者端正相好十四者多生天上十五者或為帝王十六者宿智命通十七者有求皆從十八者眷屬歡樂十九諸橫消滅二十者業道永除二十一者去處盡通二十二者夜夢安樂二十三者先亡離苦二十四者宿福受生二十五者諸聖讚歎二十六者聰明利根二十七者饒慈愍心二十八者畢竟成佛復次虛空藏菩薩若現在未來天龍鬼神聞地藏名禮地藏形或聞地藏不願事行讚歎瞻禮得七種利益一者速超聖地二者惡

能塑畫乃至金銀銅鐵作地藏形像燒香供養瞻禮讚歎是人若處即得十種利益何等為十一者土地豐壤二者家宅永安三者先亡生天四者現存壽益五者求者遂意六者無水火災七者虛耗辟除八者杜絕惡夢九者出入神護十者遇聖因又云佛告虛空藏菩薩諦聽諦聽吾當為汝分別說之若未來世有善男子善女人見地藏形像乃至香花飲食衣服珍寶布施供養讚歎瞻禮得二十八種利益一者天龍護念二者善果日增三者集聖上因四者菩提不退五者衣食豐足六者疾疫不臨七者離水火災八

者無盜賊厄九者人見欽敬十者神鬼助持十一者女轉男身十二者為王臣女十三者端正相好十四者多生天上十五者或為帝王十六者宿智命通十七者有求皆從十八者眷屬歡樂十九諸橫消滅二十者業道永除二十一者去處盡通二十二者夜夢安樂二十三者先亡離苦二十四者宿福受生二十五者諸聖讚歎二十六者聰明利根二十七者饒慈愍心二十八者畢竟成佛復次虛空藏菩薩若現在未來天龍鬼神聞地藏名禮地藏形或聞地藏本願事行讚歎瞻禮得七種利益一者速超聖地二者惡

業消滅三者諸佛護臨四者菩提不退五者增長本
力六者宿命皆通七者畢竟成佛已上經文繁冗不
遑枚舉又彼瑜伽之中有勝軍法軌所謂身披大慈
悲之鎧甲一手擎菩提心之幢旗膺五陰之彊敵退四
魔之勇士噫嘻大乎今像專當于斯所以者何一手
與願施群生之所希望息諸有之被困難是則慈悲
之甲冑也一手摩尼淨菩提心之寶性也豈非置在
高幢之神珠乎於我瞻部求佛之士不可不敬重不
可不仰止焉之製記以告來者

聖尊感應

源賴朝公之鎮鎌倉也此寺粥飯資乏稍近湮沒於
是本尊大士來現源君之前告言阿州之鶴林也前
劫聖賢之曾所遊履後世定慧之今所棲息焉而今
世屬澆俗人少淨信衣盂不給道侶艱窘夫吾佛囑
託王臣以使作家教之藩衛汝其孜之蓋最勝王經
王忘身弘正法應尊重法寶由斯衆安樂仁王經云
我所以是經付囑國王不付比丘比丘尼優婆塞優婆
夷所以者何無王源君替首渴仰太盛則奉金錫而
標淳懃寺寶寄土田以賜廚餼即今山麓之鶴敷
大士乘神足而還歸之當國小松島之中洋有一小
艇蓋勢陽太神之仕官福井氏者乞神供於民戶也

業消滅三者諸佛護臨四者菩提不退五者增長本
力六者宿命皆通七者畢竟成佛已上經文繁冗不
遑枚舉又彼瑜伽之中有勝軍法軌所謂身披大慈
悲之鎧甲一手擎菩提心之幢旗膺五陰之彊敵退四
魔之勇士噫嘻大乎今像專當于斯所以者何一手
與願施群生之所希望息諸有之被困難是則慈悲
之甲冑也一手摩尼淨菩提心之寶性也豈非置在
高幢之神珠乎於我瞻部求佛之士不可不敬重不
可不仰止焉之製記以告來者

聖尊感應

源賴朝公之鎮鎌倉也此寺粥飯資乏稍近湮沒於
是本尊大士來現源君之前告言阿州之鶴林也前
劫聖賢之曾所遊履後世定慧之今所棲息焉而今
世屬澆俗人少淨信衣盂不給道侶艱窘夫吾佛囑
託王臣以使作家教之藩衛汝其孜之蓋最勝王經
王忘身弘正法應尊重法寶由斯衆安樂仁王經云
我所以是經付囑國王不付比丘比丘尼優婆塞優婆
夷所以者何無王源君替首渴仰太盛則奉金錫而
標淳懃寺寶寄土田以賜廚餼即今山麓之鶴敷
大士乘神足而還歸之當國小松島之中洋有一小
艇蓋勢陽太神之仕官福井氏者乞神供於民戶也

于時驚颺敗帆駭決折柁千計万策七顛八倒合舟拱手俯仰乞救大士遙見即示慈容於舷上船中人見其儀形殆非常人增加悼惶大士輒言慰諭言曰汝善男子勿生怖畏我是在於當國高山之上者即地藏菩薩也即今有故往東閩而還見汝等之遭厄難之故來濟不虞耳慎勿恐懼我當救拯以進即時風穩浪恬得達于岸神官乃投小松之民家遽問主翁此間若有高山之在地藏菩薩耶翁曰有焉勝浦郡鶴林寺是也神官疾馳至寺謁住持比丘某具說事由即使拜之與向所見無毫末差神官敬慕誠

深心中發誓曰大聖鉤慈見危拯命無任感荷他後我之孫子以盡來輩歸于此尊唯願益加慈護即日捨施什物若干頂禮供養至今每載無闕然燈之供恒規不退瞻禮之敬彼家合有吉慶之事此鶴必見禎祥之瑞一日彼宅上空而告曰汝之家嫡可必號曰大鶴主翁曰是非常事誰所諭耶再告之曰衛汝之老地藏薩埵也主翁涕泗叵駐悲喜交流遂如教敕之云
鶴林山麓久國之里有一獠夫常陵此嶺徑峻赴阻坐待麋鹿弓不虛發夫不苟害洞心達腋應聲而倒

于時驚颺敗帆駭決折柁千計万策七顛八倒合舟拱手俯仰乞救大士遙見即示慈容於舷上船中人見其儀形殆非常人增加悼惶大士輒言慰諭言曰汝善男子勿生怖畏我是在於當國高山之上者即地藏菩薩也即今有故往東閩而還見汝等之遭厄難之故來濟不虞耳慎勿恐懼我當救拯以進即時風穩浪恬得達于岸神官乃投小松之民家遽問主翁此間若有高山之在地藏菩薩耶翁曰有焉勝浦郡鶴林寺是也神官疾馳至寺謁住持比丘某具說事由即使拜之與向所見無毫末差神官敬慕誠

深心中發誓曰大聖鉤慈見危拯命無任感荷他後我之孫子以盡來輩歸于此尊唯願益加慈護即日捨施什物若干頂禮供養至今每載無闕然燈之供恒規不退瞻禮之敬彼家合有吉慶之事此鶴必見禎祥之瑞一日彼宅上空而告曰汝之家嫡可必號曰大鶴主翁曰是非常事誰所諭耶再告之曰衛汝之老地藏薩埵也主翁涕泗叵駐悲喜交流遂如教敕之云
鶴林山麓久國之里有一獠夫常陵此嶺徑峻赴阻坐待麋鹿弓不虛發夫不苟害洞心達腋應聲而倒

一日行而待之勿有小蛙躍而入井一蛇追及輒吞
噉之須臾蝮蛇踵至嚙彼蛇也獠夫自省於戲物固
相累二類相召我何為者乎哉何不爾顧即時空中
有聲曰好商量獠夫即棄弧矢惶怖走還止殺不作
之者數月陶染之性正遽而改亦復如先少頃鹿至
發箭貫胸鹿則帶鏃速去搜蹤隨往其迹隨遠遂至
此寺玉殿闥間所中之箭在像之胸獠夫叩頭自悔
先罪難染為僧持念終身箭鏃之癰痕古已久矣獠
人之塚墓今見存焉誠惟大悲聖者酬往昔所發之
大誓救末世濁亂之重厄其猶病則遊戲諸地獄大

悲代受苦利益方術無可稱計蝮蛇之妙巧鹿獸之
善權嗚呼奇哉
鶴敷地里有編戶民入於斯林偷竊取材其人即日
受病身心惱亂且自語曰我之為誰鶴林寺之地藏
菩薩也此人無有成勛恣則盜竊其罪極重宜加嚴
殛傍人曰乞遭宥恕須使改悔前非必永遏絕且復
雖言然把之木不可足償裁而報之曰諾其患即日
復本則植檜木數株今猶見在右之応迹唯記觸目
之事傳聞事蹟實雖百數且置不錄

一日行而待之勿有小蛙躍而入井一蛇追及輒吞
噉之須臾蝮蛇踵至嚙彼蛇也獠夫自省於戲物固
相累二類相召我何為者乎哉何不爾顧即時空中
有聲曰好商量獠夫即棄弧矢惶怖走還止殺不作
之者數月陶染之性正遽而改亦復如先少頃鹿至
發箭貫胸鹿則帶鏃速去搜蹤隨往其迹隨遠遂至
此寺玉殿闥間所中之箭在像之胸獠夫叩頭自悔
先罪難染為僧持念終身箭鏃之癰痕古已久矣獠
人之塚墓今見存焉誠惟大悲聖者酬往昔所發之
大誓救末世濁亂之重厄其猶病則遊戲諸地獄大

悲代受苦利益方術無可稱計蝮蛇之妙巧鹿獸之
善權嗚呼奇哉
鶴敷地里有編戶民入於斯林偷竊取材其人即日
受病身心惱亂且自語曰我之為誰鶴林寺之地藏
菩薩也此人無有成勛恣則盜竊其罪極重宜加嚴
殛傍人曰乞遭宥恕須使改悔前非必永遏絕且復
雖言然把之木不可足償裁而報之曰諾其患即日
復本則植檜木數株今猶見在右之応迹唯記觸目
之事傳聞事蹟實雖百數且置不錄

延寶元癸丑年行年三十五

播之美葱郡吉川谷吉祥寺記

古人有言曰夏蟲不可以語冰者篤於時也寔惟物理之否泰凡無有常也夫無有常則我法之通塞未可能知也未可能知則不易語於庸人也播之美葱縣有一神區山圍三面若春葩若秋楓滿林成繡竹當半牕乍午雨乍曉雪入枕破夢谿泉之濺玉兮廣長舌之恒轉法輪也山色之凝碧兮清淨身常現妙相也奇巖鍾秀是則玄聖之攸遊化攢峯占幽奚翅

延寶元癸丑年行年三十五

播之美葱郡吉川谷吉祥寺記

古人有言曰夏蟲不可以語冰者篤於時也寔惟物理之否泰凡無有常也夫無有常則我法之通塞未可能知也未可能知則不易語於庸人也播之美葱縣有一神區山圍三面若春葩若秋楓滿林成繡竹當半牕乍午雨乍曉雪入枕破夢谿泉之濺玉兮廣長舌之恒轉法輪也山色之凝碧兮清淨身常現妙相也奇巖鍾秀是則玄聖之攸遊化攢峯占幽奚翅

靈仙之所窟宅焉初西竺之耆闍崛山有一仙苑五百持明仙住之修金剛摩尼祕軌皆悉得道遊歷諸刹利樂群生神用難思壽無量載法道仙人者其一也一日馭雲入吾日域下播州印南郡法花山于時溪谷出五色光道以為靈宇居此常誦法華修密觀所持道具千手大悲銅像佛舍利寶鉢而已餘無長物一時多聞天王來下語道曰大仙久棲遲此我當擁護正法鎮撫邦國孝德皇帝五年五月上弗豫藥餌不效乃詔左僕射阿部倉內召道加護道入宮持念玉體平復九鄉稽顙六宮羅拜止宮七日弘演真

靈仙之所窟宅焉初西竺之耆闍崛山有一仙苑五百持明仙住之修金剛摩尼祕軌皆悉得道遊歷諸刹利樂群生神用難思壽無量載法道仙人者其一也一日馭雲入吾日域下播州印南郡法花山于時溪谷出五色光道以為靈宇居此常誦法華修密觀所持道具千手大悲銅像佛舍利寶鉢而已餘無長物一時多聞天王來下語道曰大仙久棲遲此我當擁護正法鎮撫邦國孝德皇帝五年五月上弗豫藥餌不效乃詔左僕射阿部倉內召道加護道入宮持念玉體平復九鄉稽顙六宮羅拜止宮七日弘演真

乘、與旨、君臣歎稱、因之設、無遮會、道歸山此年、救、
於山中、建大殿、安、所持、觀自在、銅像及佛舍利寶鉢、
白雉元年九月落成、上幸、寺慶讚、始、本朝重神、輕、
佛、至、之唱導、天下翕然、反、之宮中、大藏會、白雉二
月、請、二千沙門、轉大、僧尼、宮齋、同三年十一月普、會、
藏、于宮中、夜然、二千燈、僧尼、于宮中、設、
又、燒燈、皆道、之論化也、道居、本山、數十祀、一日過、吉
川、此、處異光炳煥、就、而見、之多聞、天金像、在、櫻楠、之
下、道憶、前約、初營、大殿、安、之又、構、講堂、奉、藥師、如來
十一面、觀自在、菩薩、毘沙門、天、像、皆、上、之所、資、施、
也、爾來、門樓、支提、相繼、而興、院宇、二十、而餘、之一、矣

春日神祠六社權現作鎮於茲方今象教陵夷殿閣
敗壞無可足觀之者向之所謂通塞有時何必驚歎
予恐後世失其傳為之而書

延寶三乙卯年行年三十七

和人元旦

陋巷春來經過少柴扉寂寞絕塵埃山人笑殺世人
開味酒痛狂三百杯

乘ノ與旨、君臣歎稱、因レ之設、無遮會、道歸山此年、救シテ
於ニ山中ニ建、大殿、安、所持、觀自在ノ銅像及佛舍利寶鉢、
白雉元年九月ニ落成、上幸、寺慶讚、始メ本朝重神、輕、
佛、至、之唱導、天下翕然、反、之宮中ノ大藏會、白雉二
月、請、二千沙門、轉大、僧尼、宮齋、同三年十一月普、會、
藏、于宮中、夜然、二千燈、僧尼、于宮中、設、
又、燒燈、皆道、之論化也、道居、本山、數十祀、一日過、吉
川、此、處異光炳煥、就、而見、之多聞、天金像、在、櫻楠、之
下、道憶、前約、初營、大殿、安、之又、構、講堂、奉、藥師、如來
十一面、觀自在、菩薩、毘沙門、天、像、皆、上、之所、資、施、
也、爾來、門樓、支提、相繼、而興、院宇、二十、而余、之一、ヲ、矣

春日神祠六社權現作鎮於茲方今象教陵夷殿閣
敗壞無可足觀之者向之所謂通塞有時何必驚歎
予恐後世失其傳為之而書

延寶三乙卯年行年三十七

和人元旦

陋巷春來經過少柴扉寂寞絕塵埃山人笑殺世人
開味酒痛狂三百杯

圓忍律師行狀并贊行狀載于別卷

滔々法海魚鼈於初中有飛龍其号圓忍託緣北陸紹風南印且信且解克勤克進其一受學毘尼累載琢磨安心它道豈辭輟輟四量四攝六度六和洽濟有截能接僧伽其二無生劍刃慈悲甲冑慧與戒定為之左右觀此冒地持彼密呪廻光千古万世誰又其三舉其遺緒煽其餘炎律幢密綱維轄維鈴八部欽仰四眾具瞻區々小子欽贊芥纖

菩薩戒諺註自叙

第一義天可階而升之者其惟菩提心乎發菩提心

圓忍律師行狀并贊行狀載于別卷

滔々法海魚鼈於初中有飛龍其号圓忍託緣北陸紹風南印且信且解克勤克進其一受學毘尼累載琢磨安心它道豈辭輟輟四量四攝六度六和洽濟有截能接僧伽其二無生劍刃慈悲甲冑慧與戒定為之左右觀此冒地持彼密呪廻光千古万世誰又其三舉其遺緒煽其餘炎律幢密綱維轄維鈴八部欽仰四眾具瞻區々小子欽贊芥纖

菩薩戒諺註自叙

第一義天可階而升之者其惟菩提心乎發菩提心

以戒為要誓則根株堅固必不可動是故顯言心地戒密言三昧耶皆以為始步始步為鴻基豈易言耶舍那創誦能仁傳唱寔有以乎延寶乙卯之冬予講心地戒于鄉粉之常樂寺道俗靡風希受持之者夥矣偶南紀慈光精舍玄忍大德有故見過華戶幸讀說戒之前後凡六會新受菩薩五十有八矣復弊邑之一盛事也是非予臂吻之使然誠心地戒德之所為耳因而為一信士就太賢古迹揭其戒題加俚諺於其下將使秉持也有新學菩薩諱性寂者覽之曰斯實初志南針也請壽於梓有啟後來之蒙我幹緣

以戒為要誓則根株堅固必不可動是故顯言心地戒密言三昧耶皆以為始步始步為鴻基豈易言耶舍那創誦能仁傳唱寔有以乎延寶乙卯之冬予講心地戒于鄉粉之常樂寺道俗靡風希受持之者夥矣偶南紀慈光精舍玄忍大德有故見過華戶幸讀說戒之前後凡六會新受菩薩五十有八矣復弊邑之一盛事也是非予臂吻之使然誠心地戒德之所為耳因而為一信士就太賢古迹揭其戒題加俚諺於其下將使秉持也有新學菩薩諱性寂者覽之曰斯實初志南針也請壽於梓有啟後來之蒙我幹緣

之子其努力予不得止重撥群賢之遺言聊下注脚
是非呈博達之緇流惟導庸愚之素士耳矧復淺見
膚學紕繆定多後覽者有感乎斯文添削正之則不
肖之者也延寶第三龍集乙卯季冬初七洛西般若
密寺菩薩戒弟子淨嚴書手粉榆之如晦菴

延寶四丙辰年行年三十八

越中芹谷山千光寺銅鐘銘

越之中州芹谷之裏中有梵宮名千光寺新鑄鉅鐘

索予筆記非才非敢映顏銘字其一輪環三界沫泡
五陰驚之覺之無過梵音梵音西震遺響東臨蔚彼
扶桑枝茂蔭深其二聖武御寓天平紀元圓德創址
觀在迹存普眼洽矚甲利獨尊慈航稠載法泉濟源
其三兵燹構禍一朝而化三尊易地九乳聲嘖纔舉
其廢茨蓋竹架猶恨未有寸莛時夜其四篤信之士
其姓□氏捨金擇銅付之鑪錘良工克就非弁鐘也
非侈鐘也鼉吼蛟鳴信善信美其五百億素怛五時
達磨一音演唱大千齊和其醉忽醒其寢咸叱願諸
聽者同證遮那其六

之子其努力予不得止重撥群賢之遺言聊下注脚
是非呈博達之緇流惟導庸愚之素士耳矧復淺見
膚學紕繆定多後覽者有感乎斯文添削正之則不
肖之者也延寶第三龍集乙卯季冬初七洛西般若
密寺菩薩戒弟子淨嚴書手粉榆之如晦菴

延寶四丙辰年行年三十八

越中芹谷山千光寺銅鐘銘

越之中州芹谷之裏中有梵宮名千光寺新鑄鉅鐘

索予筆記非才非敢映顏銘字其一輪環三界沫泡
五陰驚之覺之無過梵音梵音西震遺響東臨蔚彼
扶桑枝茂蔭深其二聖武御寓天平紀元圓德創址
觀在迹存普眼洽矚甲利獨尊慈航稠載法泉濟源
其三兵燹構禍一朝而化三尊易地九乳聲嘖纔舉
其廢茨蓋竹架猶恨未有寸莛時夜其四篤信之士
其姓□氏捨金擇銅付之鑪錘良工克就非弁鐘也
非侈鐘也鼉吼蛟鳴信善信美其五百億素怛五時
達磨一音演唱大千齊和其醉忽醒其寢咸叱願諸
聽者同證遮那其六

高山早春

高山寺裏始逢春、厨庫蕭然、物外、身傳暖東風、衝牖入韶光、不隔林下、貪

龍泉寺銅鐘銘

内州石川郡龍泉寺、則上宮皇子命、蘇我馬子、攸創營之也、背崇嶺、面巨壑、清溪走其足、脩竹縈其腰、青松万株、冬夏不改其觀、白雲一片、日夕似伴其寂、寔修禪之攸依、又攝心之勝窟也、寺傍有池中、有惡龍暴虐、巨禦數損稼穡、時害僧人、蘇氏不忍、聞之、束帶嚴整、奮威、現、瞋、睨、池而立、凡七晝夜、龍變人形、而言、

高山早春

高山寺裏始逢春、厨庫蕭然、物外、身傳暖東風、衝牖入韶光、不隔林下、貪

龍泉寺銅鐘銘

内州石川郡龍泉寺、則上宮皇子命、蘇我馬子、攸創營之也、背崇嶺、面巨壑、清溪走其足、脩竹縈其腰、青松万株、冬夏不改其觀、白雲一片、日夕似伴其寂、寔修禪之攸依、又攝心之勝窟也、寺傍有池中、有惡龍暴虐、巨禦數損稼穡、時害僧人、蘇氏不忍、聞之、束帶嚴整、奮威、現、瞋、睨、池而立、凡七晝夜、龍變人形、而言、

言我見公之威肅、殊甚惶怖、言畢、冲虚而去、厥後、四邊二三里、許水忽枯竭、農困、力耕、人勞、洞酌、空海、大師偶經于茲、愍衆僧之渴、泉慨而穀之、匱、潤召於善女龍、使主此池、自今以降、愆陽、作虐、煎沙、鑠石、野青草、民且菜色、效誠、祈求、無不立、雨是龍泉之所以為稱也、而紺宇並、覺、緇徒踵踵、無愧、當時也、泉濱境、浦、鉅商八丈氏、市右衛門尉者、篤信之徒也、憤地、靈、寺古、蒲牢之無、昔晨昏之久矣、遂命、覺氏、銘、昆吾、銅、擬、祇、洎、模、不日而成、因、而責、予、以銘、其上、不得、敢辭、叉手、而言、曰、夫、黃鐘始、導、則二六之律、咸、應、青銅一

言我見公之威肅、殊甚惶怖、言畢、冲虚而去、厥後、四邊二三里、許水忽枯竭、農困、力耕、人勞、洞酌、空海、大師偶經于茲、愍衆僧之渴、泉慨而穀之、匱、潤召於善女龍、使主此池、自今以降、愆陽、作虐、煎沙、鑠石、野青草、民且菜色、效誠、祈求、無不立、雨是龍泉之所以為稱也、而紺宇並、覺、緇徒踵踵、無愧、當時也、泉濱境、浦、鉅商八丈氏、市右衛門尉者、篤信之徒也、憤地、靈、寺古、蒲牢之無、告晨昏之久矣、遂命、覺氏、銘、昆吾、銅、擬、祇、洎、模、不日而成、因、而責、予、以銘、其上、不得、敢辭、叉手、而言、曰、夫、黃鐘始、導、則二六之律、咸、應、青銅一

擊^キ則大千之衆悉集^ス是故西乾之十方斤告沙界會^ニ
實聖東漢之二斛節八音和邦國移風易俗五倫之
禮所由而序^ニ播^ニ德^ニ通^ニ靈^ニ三途厄攸聞而脫也廻之冥
福施^ニ世教^ニ其功非少今捨淨財成^ニ鐘^ニ以斯鴻業
洽彼幽府然則物故信士宗勿祐西淨雲宗和宗春
淨玄淨拜休念道休道祐等信女妙德妙勘妙圓妙
心妙圓妙意等長出三有之苦輪海速登四身之摩
尼殿現存優婆塞乘尔道喜優婆夷妙勝妙西比壽
松椿競富朱頓乃至十方三際澤被無疆乃為銘曰
人名八丈寺則龍泉林壑卜勝誠信守堅則告鑪人

成規團圓厚薄中程侈弇不偏近亮遠彰谷響風傳
攪無明夢駭長夜眠福覃九族沢流大千永劫不朽
祈祐無邊延寶四年九月十六日密乘末裔淨嚴欽
識

延寶五丁巳年 行年三十九

延寶五年冬閏十有二月廿三日讚之鹽飽牛頭山
極樂密寺住持省譽闍梨因大檀主宗心信男之施淨
財一鑄一巨鐘懸之高樓因責銘予不得敢辭則為銘

擊^ハ則大千之衆悉集^ル是故西乾之十方斤告沙界會^ニ
賢聖東漢之二斛節八音和邦國移風易俗五倫之
禮所由而序^ニ播^ニ德^ニ通^ニ靈^ニ三途厄攸聞而脫也廻之冥
福施^ニ世教^ニ其功非少今捨淨財成^ニ鐘^ニ以斯鴻業
洽彼幽府然則物故信士宗勿祐西淨雲宗和宗春
淨玄淨拜休念道休道祐等信女妙德妙勘妙圓妙
心妙圓妙意等長出三有之苦輪海速登四身之摩
尼殿現存優婆塞乘尔道喜優婆夷妙勝妙西比壽
松椿競富朱頓乃至十方三際澤被無疆乃為銘曰
人名八丈寺則龍泉林壑卜勝誠信守堅則告鑪人

成規團圓厚薄中程侈弇不偏近亮遠彰谷響風傳
攪無明夢駭長夜眠福覃九族沢流大千永劫不朽
祈祐無邊延寶四年九月十六日密乘末裔淨嚴欽
識

延寶五丁巳年 行年三十九

延寶五年冬閏十有二月廿三日讚之塩飽牛頭山
極樂密寺住持省譽闍梨因大檀主宗心信男之施淨
財一鑄一巨鐘懸之高樓因責銘予不得敢辭則為銘

日牛頭山裏有阿蘭拏水媚林古境遂徑斜紺殿衝
漢朱樓出霞上方軼檻寂無諠譁神足攸遊靈仙爰
託院勝長德寺效極樂慈布密雲德普祕沢化物成
器比之蒙籥德香遐熏患不足思鑄鉅鯨戒警緇
潤洽鬼畜救極難獄以之攬懷太懇太篤牛島富商
素累万金家標長喜人名宗心助彼志願周此德音
凡其丹棘誠至誓深命之梟氏制度告全利覃沙界聲
駭大千益廣如空不竭如泉孝妣適庶福祚無邊河
陽寶輪苾芻淨嚴欽誌

延寶六戊午年行年四十

寶輪早春

遮莫門門柳色加火爐對坐念瑜伽村翁田媪賀春
苦忙裏那知鬢條暗

和州青龍寺銅鐘銘

延寶六年歲次著雍敦牂孟春之月大和州宇知郡
宇野鄉神足山僧來索銘銅鐘不得敢辭乃援筆曰
馬臺之洲大和之國葛嶺之南倭川之北中有玄區
碧殿有伽藍儀民生飽德大士垂化祠宇相雙

日牛頭山ノ裏ニ有阿蘭拏水媚ヒ林古リ境遂々徑斜紺殿衝

漢朱樓出レ霞上方軼檻寂無諠譁神足ノ攸遊靈仙爰ニ

託院勝長德寺效極樂慈布密雲德普祕沢化物成ス

器比之蒙籥德香遐熏患不足思鑄鉅鯨戒警緇

潤洽鬼畜救極難獄以之攬懷太懇太篤牛島富商

素累万金家標長喜人名宗心助彼志願周此德音

凡其丹棘誠至誓深命之梟氏制度告全利覃沙界聲

駭大千益廣如空不竭如泉孝妣適庶福祚無邊河

陽寶輪苾芻淨嚴欽誌

延寶六戊午年行年四十

寶輪早春

遮莫門門柳色ノ加火爐對坐念瑜伽村翁田媪賀春
苦忙裏那知鬢條暗

和州青龍寺銅鐘銘

延寶六年歲次著雍敦牂孟春之月大和州宇知郡
宇野鄉神足山僧來索銘銅鐘不得敢辭乃援筆曰
馬臺之洲大和之國葛嶺之南倭川之北中有玄區
碧殿有伽藍儀民生飽德大士垂化祠宇相雙

妙應異途經國鎮邦山、留神足院、標法幢、姦兇遠辟、
魍魎日降、泉流響曲、松檜森翠、騷客凝眺、遊子駐轡、
銅鐘千鈞脫鑪、成器大千警衆、三轉呈瑞、汎彼六舟、
拯溺生殷、其九乳去濁、就清、鳴也能鳴、不平、鳴、冀
矣、導誘、破壁、龍首、河陽寶輪、苾芻淨嚴謹銘

播陽金藏寺記

播陽多可、郡松先莊、有山岌然、而廻出衆峯之者、名
曰金藏焉、聞諸先志、曰昔代瑠璃界、主醫王善逝慨
像末之昏濁、哀季運之頽廢、降迹於歸見山、今在金藏之坤
是也佛頭現此光明廣大輝赫十方海中、鱗類見光、
故名曰御頭藏

驚散浦人愁于釣漁之不利、詣于熊野神祠而禱之、
一夕夢神騎白馬、西之播陽云、云熊野靈神至、歸見
山、信宿之際、禦於魍魎、營于佛殿、天工之奇、非尋常
之所、測誠惟和光利物、靈神感德之所、致也、而后佛
頭又移于良嶽、則今金藏山也熊神又隨艾夷、榛莽以助、佛
化、彼此經過之際、每騎白馬、瀑布之巖、猶貽馬足之
痕、笠取之嶺、今余神遊之蹤也、夫此峯也、峯巒爭奇、
巖岫攢秀、蒼翠相繆、空碧曰接、信為玄聖之攸依、故
役小角、覽斯幽勝、練行克勤、菅原行基、尋佛光而遙
來、問里人、皆曰、尔來如此、不曉其由、基則攀葛、援蘿、

妙應異途經國鎮邦山、留神足院、標法幢、姦兇遠辟、

魍魎日降、泉流響曲、松檜森翠、騷客凝眺、遊子駐轡、

銅鐘千鈞脫鑪、成器大千警衆、三轉呈瑞、汎彼六舟、

拯溺生殷、其九乳去濁、就清、鳴也能鳴、不平、鳴、冀
矣、導誘、破壁、龍首、河陽寶輪、苾芻淨嚴謹銘

播陽金藏寺ノ記

播陽多可ノ郡松井ノ莊ニ有山ノ岌然、而廻出衆峯ノ之者、名テ

曰ニ金藏ト焉、聞クニ諸先志ニ曰昔代瑠璃界ノ主醫王善逝慨ニ

像末ノ之昏濁、哀季運ノ之頽廢、降迹於歸見山、今在金藏之坤

是也佛頭現此光明廣大輝赫十方海中、鱗類見光、
故名曰御頭藏

驚散ス浦人愁テ于釣漁之不利、詣テ于熊野ノ神祠ニ而禱ルニ之

一夕夢ラク神騎ニ白馬ニ西ノ方ニ之ニト播陽ニ云云熊野ノ靈神至ニ歸見

山ニ信宿ノ之際、ニ禦テ於魍魎、ニ營テ于佛殿、天工ノ之奇、非ニ尋常ノ

之所、測誠惟和光利物、靈神感德ニ之所、致也、而后仏

頭又移ニ于良嶽、則今金藏山也熊神又隨艾夷、榛莽ニ以助ニ仏

化、彼此經過ノ之際、毎ニ騎ニ白馬ニ瀑布ノ之巖、猶貽ニ馬足ノ之

痕、笠取ノ之嶺、今余ニ神遊ノ之蹤也、夫レ此峯ハ也峯巒爭奇、

巖岫攢秀、蒼翠相繆、空碧ニ曰接、信ニ為ニ玄聖ノ之攸依、一故ニ

役ノ小角、覽ス幽勝、練行克勤、菅原ノ行基、尋ニ佛光ニ而遙ニ

來、問ニ里人ニ皆曰、尔來如此、不曉ニ其ノ由、基則攀葛、援蘿、

迴至佛頭之處始見其寶靈耀煥赫鳥瑟高顯基悲
喜交集則刻造佛軀安佛頭亦營殿宇妥帖布置其
後睿嶽圓仁慈覺大師遙ニ喰ニ風德ニ竭ニ來ニ數回又興營構自
明寺來自レ已降碩德名繼連蹤接テ踵ヲ象教繁衍（リテ）化
育群生予恨王候之不遊怒勝崛之無記故畧舉其
梗概耳熟惟藥師如來者二六弘願救脫像法轉時
之衆庶七千藥又摧滅煩惱結使羣醜挑ハ七層輪燈
則七難瞬息消除造五色綵幡則五苦須臾解脫若
專念稱讚則已盡之壽猶得增益一薄祐短命之屬得
大依怙又至心歸信則九種之橫未然辟除重垢天

殤之類作善護助況復一經其耳之小業被衆病悉
除之鉅報無醫無藥之族蓋仰大願大誓之益凡其
妙用山毫地墨所不レ克記スルコト靈化之深福地之勝人法
兩絕是所予之憤排也故書

讚州神光寺銅鐘銘

讚州那珂郡立石浦寶珠山神光寺也者讚陽之甲
刹而八幡大菩薩和光之地無量壽如來降靈之岨
也英檀池路左兵衛尉竭篤信傾淨財鑄彼鉅鯨架
之高閣拯羣生之苦酷致四德之圓常現住主盟宥
筭寄冥鴻之迴來責充免之漫染貧道樗散不幸遭

迴至佛頭之處始見其寶靈耀煥赫鳥瑟高顯基悲

喜交集則刻造佛軀安佛頭亦營殿宇妥帖布置其
後睿嶽圓仁慈覺大師遙ニ喰ニ風德ニ竭ニ來ニ數回又興營構自
明寺來自レ已降碩德名繼連蹤接テ踵ヲ象教繁衍（リテ）化
育群生予恨王候之不遊怒勝崛之無記故畧舉其
梗概耳熟惟藥師如來者二六弘願救脫像法轉時
之衆庶七千藥又摧滅煩惱結使羣醜挑ハ七層輪燈
則七難瞬息消除造五色綵幡則五苦須臾解脫若
專念稱讚則已盡之壽猶得增益一薄祐短命之屬得
大依怙又至心歸信則九種之橫未然辟除重垢天

殤之類作善護助況復一經其耳之小業被衆病悉

除之鉅報無醫無藥之族蓋仰大願大誓之益凡其
妙用山毫地墨所不レ克記スルコト靈化之深福地之勝人法
兩絕是所予之憤排也故書

讚州神光寺銅鐘銘

讚州那珂郡立石浦寶珠山神光寺也者讚陽之甲
刹而八幡大菩薩和光之地無量壽如來降靈之岨
也英檀池路左兵衛尉竭篤信傾淨財鑄彼鉅鯨架
之高閣拯羣生之苦酷致四德之圓常現住主盟宥
筭寄冥鴻之迴來責充免之漫染貧道樗散不幸遭

不如息所如
延富兩辰載
五
樓州聖
能
寶珠山神
雨有生源
爾其姓池
士其姓池
度清音
幽通冥
入一河
肥州降
賀世生
賀世莊
諱尊祐寺
圓城幼而
敏捷長

而博聞窮曉窮文字詩字文窺真該釋李施化洽
素開基創蓮花興廢榮寶樹尋究小野幽趣行到
澤深隈刺通梵書雅致實為密門巨魁誰料一旦歛
歸真茫茫溺子失船筏林落秋深晚風愁朱樓紺殿
空突兀
備中西阿地遍照院修造幹緣疏戊午三月廿
地蔵
院作
夫修行者所依之處有二種上也有謂樹下露地
及與塚間下也者則阿蘭若處僧伽藍摩訶託鉢
除煩助修長道是故振古暨今建石室闢金地營

枉不得敢辭乃為銘曰梵宮有恤于彼讚陽福庭卜
食幾多百霜法寶珠璨其神光九品崇台八幡占
場其一風吹日照雲行雨施懷夫周道厥沢如砥蠹
爾有生源游泳德涯頌聲溢耳八達九達其淨信之
士其姓池路載詔見氏開鑪鑄妙工自天應規合
度清音攪眠響晨告暮其三樵蘇猜獅釣漁錯鼉徹
幽通冥驚鬼降魔會集索多招徠僧伽冀諸含靈同
入一河其四
肥之前州寶樹山圓城寺尊祐法印影贊
肥州降賀世生佐嘉那諱尊祐寺圓城幼而敏捷長

而博聞窮曉窮文字詩字文窺真該釋李施化洽
素開基創蓮花興廢榮寶樹尋究小野幽趣行到
澤深隈刺通梵書雅致實為密門巨魁誰料一旦歛
歸真茫茫溺子失船筏林落秋深晚風愁朱樓紺殿
空突兀
備中西阿地遍照院修造幹緣疏戊午三月廿
地蔵
院作
夫修行者所依之處有二種上也有謂樹下露地
及與塚間下也者則阿蘭若處僧伽藍摩訶託鉢
除煩助修長道是故振古暨今建石室闢金地營

精舍、初禪窟、職、而由斯于茲當寺、則
後三條院勅願延久年中草創之寺、陀善逝有緣
利生之地也、誅茅已來、六百餘歲、碩德高行、接踵棲
止、佛塔僧舍、並棟競興、四來運沓、法雨之潤、日洽三
密、紹隆佛日之照、恒煥雖今、法運之流塞、不齊物象
之興廢、易地頃年、水也壬癸、荇藕殿閣、向亡見聞、歎
嗟寄寓、失披因茲、小僧效蚊蚋、力勵燕雀、志不擇銖
粒、周扣緇素、將遂大業、以普鉅益、伏冀十方士女、四
遠貴賤、互相勸獎、同共資助、使遂修治之功、以裨息
心之道、若今鴻福不盡、廣覃沙界、正教無絕、遠窮塵

精舍^{シムルコト}、禪窟^{ニシテ}、職^{ニシテ}、而由斯于茲當寺^ハ、則
後三條院勅願延久年中草創之寺、陀善逝有緣
利生之地也、誅^キ茅已來、六百餘歲、碩德高行、接^ツ踵^{クヒス}棲
止、仏塔僧舍並^{ヘテ}棟^{キヲ}競興^{イレリ}、四來運沓、法雨之潤、日洽三
密、紹隆佛日之照、恒煥^{シナリ}、雖^{レト}今、法運之流塞、不^レ齊物象
之興廢、易^{ヘタリ}地頃年、水也壬癸、荇^ニ藕^{ヒシテ}殿閣、向^{ナシ}亡^{スルニ}、見聞歎
嗟、寄寓失披、因茲、小僧效^{イタ}蚊蚋、力勵^{シテ}燕雀、志不^レ擇銖
粒、周扣^ク緇素、將^ニ遂^ケ大業、以普^フ鉅益、伏冀^ク十方士女、四
遠貴賤、互相^{ヒトヒト}勸獎、同共^ニ資助、使^{シテ}遂^ケ修治之功、以裨^ケ息
心之道、若今、鴻福不^レ盡、廣^ク覃^ニ沙界、正教無^レ絕、遠^ク窮^ニ塵

劫凡、厥有緣現存壽域、後登覺蓮、欽疏
泉州補陀洛山、記^{聖百五十步、橫百八十餘步、三月二十八日於大坂旅館作}
泉州大島郡和田谷補陀洛山放光寺也、則行基菩
薩卜食之地、空海和尚修練之場也、峯巒攢青、自標
海岸孤絕之勢、澗水泛綠、似示法流不竭之儀、堅牢
地神大辯功德念本誓、而鎮護金剛藏王天照太神
崇家教、以藩衛後、則寶篋印塔婆收納一切如來、心
祕密前、則阿弥陀種覺攝取十方世界念佛人、經塚
西堆、則無明妄想蕩于一禮之額、山門南啓、則有德
導師容於四來之賓、觀在大士曩昔垂迹地藏薩埵

劫^{一ツ}凡^ノ厥^ノ有緣現存^シ壽域^ニ、後^{ニハ}登^{ラン}覺蓮^ニ、欽^テ疏^ス
泉州補陀洛山、記^{聖百五十步、橫百八十餘步、三月二十八日於大坂旅館作}
泉州大島郡和田谷補陀洛山放光寺^ハ、也、則行基菩
薩卜食^ノ之地、空海和尚修練之場也、峯巒攢^{アツ}青、自標^シ
海岸孤絕之勢、澗水泛^フ綠、似^シ示^シ法流不竭之儀、堅牢
地神大辯功德念^{シテ}本誓^ニ、而鎮護^シ金剛藏王天照太神
崇^ニ家教^ヲ、以藩衛^ス後^{ロニハ}、則寶篋印塔婆收納^シ一切如來、心
祕密^ヲ前^{ヘニハ}、則阿弥陀種覺攝^メ取^{シテ}十方世界念佛人、經塚
西^ニ堆^キ、則無明妄想蕩^ケ于一禮之額、山門南^ニ啓^{クル}、則有德^ノ
導師容^ル於四來之賓、觀^シ在大士曩昔垂迹地藏薩埵

今猶施化顯密而乘于茲繁衍誠有所以乎哉訪之
住古則雖子院以十而數誠於當時則唯殿宇若干而
在殊嗟像運當隆苦恨兵燹之使然也承應之比有
羽州秋田之僧某見斯淪胥慨嘆尤甚因發激憤博
勸有信造觀音殿厥后菩薩戒苾芻儀然大德繼興
增盛大德天姓篤懃信修寂靜身但三衣腹唯一鉢
檀送闕供鉢器屢空曾不介意戒珠瑩兮無瑕道根
確乎不拔密呪誦經以為時務禪觀稱名以為常事
是故田夫野童歌之頌之農翁織婦亦欽亦禮予素
聞風聲德音溢耳然無嘉緣未接玉趾一日扣予柴

門見訪動履目擊如舊傾蓋似故孔子曰君子居焉
何陋之有況是補嚴之奇絕而且又苾芻之高勝乎
哉予雖恥愚陋怒無記事因揮腐兔以貽后來肯延
寶戊午季春小盡河州寶輪小苾芻淨嚴謹誌
子院舊跡雲之坊新坊秋院施行院長寬院戒
院來迎院與坊藥師院忍辱院善願院多聞院精進
坊西營坊住生院浴室寶藏
現存定修院常住院
慧香院
殿堂觀音殿彌勒堂觀音堂阿彌陀堂
此等也

高祖大師影贊 七月六日於讚州善通寺作
与櫛無村庄野權十郎

今猶施化顯密而乘于茲繁衍誠有所以乎哉訪之
住古則雖子院以十而數誠於當時則唯殿宇若干而
在殊嗟像運當隆苦恨兵燹之使然也承應之比有
羽州秋田之僧某見斯淪胥慨嘆尤甚因發激憤博
勸有信造觀音殿厥后菩薩戒苾芻儀然大德繼興
增盛大德天姓篤懃信修寂靜身但三衣腹唯一鉢
檀送闕供鉢器屢空曾不介意戒珠瑩兮無瑕道根
確乎不拔密呪誦經以為時務禪觀稱名以為常事
是故田夫野童歌之頌之農翁織婦亦欽亦禮予素
聞風聲德音溢耳然無嘉緣未接玉趾一日扣予柴

門見訪動履目擊如舊傾蓋似故孔子曰君子居焉
何陋之有況是補嚴之奇絕而且又苾芻之高勝乎
哉予雖恥愚陋怒無記事因揮腐兔以貽后來肯延
寶戊午季春小盡河州寶輪小苾芻淨嚴謹誌

子院旧跡雲之坊新坊秋院施行院長寬院戒

院來迎院與坊藥師院忍辱院善願院多聞院精進
坊西營坊住生院浴室寶藏

現存定修院常住院
慧香院

殿堂觀音殿彌勒堂觀音堂阿彌陀堂
此等也

高祖大師影贊 七月六日於讚州善通寺作
与櫛無村庄野權十郎

蓋天蓋地德何窮ノ名稱普聞ノ萬石確欲識靈心ノ攸窟
宅一スル元來三曜朗長空二

讚陽善通寺逢中秋八月十五日

萬石騷人去不還返也句宣切冰輪歲歲為誰圓コヨヒ此
夕殊多興樽酒何須苦相牽クコトラ

書上一絕贈省謙師引同十六日

昨宵長天雲捲清光殊絕僑居寂寥トシテ興趣惟夥シテ持誦
之餘偶得一兩句今朝夢回復廣成之ツ以為一絕夫
吾毘尼之中有不涉文筆之明誠一雖然遇之勝致則
不覺吐露是生平詩癖之使然也諒惟足下高才

超軼雅思風馳宜以鎚砧予之小器請勿罪僭越悵
懼悚懼伏丐運斤

再次前韻重簡省謙師兼和謙師俳偕之韻末

昨見和鄙韻且又蒙示高詠光彩輝發シテ拔羣絕倫
自非慈顧之深焉至ニ茲哉多謝多謝不肖不肖言
詩之久荊棘塞路ニ蕪穢難治雖レ尔恩賜之重理不
得止再踵前韻以呈梧石又光誦之韻末ニ所謂
成圓之器是夫規之者耶不肖不肖揆機線叨塵其礎
勿罪惟幸切冀郢斤開封驚見子之還句句含光冰
玉圓勿怪詩情時瞥起朝來也被正風牽

蓋天蓋地德何窮ノ名稱普聞ノ萬古雄欲識靈心ノ攸窟
宅一スル元來三曜朗長空二

讚陽善通寺逢中秋八月十五日

萬石騷人去不還返也句宣切冰輪歲歲為誰圓コヨヒ此
夕殊多興樽酒何須苦相牽クコトラ

書上一絕贈省謙師引同十六日

昨宵長天雲捲清光殊絕僑居寂寥トシテ興趣惟夥シテ持誦
之余偶得一兩句今朝夢回復廣成之ツ以為一絕夫
吾毘尼之中有不涉文筆之明誠一雖然遇之勝致則
不覺吐露是生平詩癖之使然也諒惟足下高才

超軼雅思風馳宜以鎚砧予之小器請勿罪僭越悵
懼悚懼伏丐運斤

再次前韻重簡省謙師兼和謙師俳偕之韻末

昨見和鄙韻且又蒙示高詠光彩輝發シテ拔羣絕倫
自非慈顧之深焉至ニ茲哉多謝多謝不肖不肖言
詩之久荊棘塞路ニ蕪穢難治雖レ尔恩賜之重理不
得止再踵前韻以呈梧石又光誦之韻末ニ所謂
成圓之器是夫規之者耶不肖不肖揆機線叨塵其礎
勿罪惟幸切冀郢斤開封驚見子之還ハヤワサセル句句含光冰
玉圓勿怪詩情時瞥起朝來也被正風牽

和俳偕韻末、二三十月ハ心ノブニシ

應用無方興此衰見來和氣滿門楯請君不借禪餘力陶治後生成淨規

一寶道生號

是歲季秋之末寓於屋島之蘭若有一信士自高松城而來也曰我企望於師之久矣頃日聞飛錫于茲歡喜無量粵去十三之夕夢從于師受法號既而得一軸書披而閱之其首曰一寶焉覺而惟記此兩字餘皆失也今日幸陪法席冀賜法號矣予告之曰夫一寶者何謂一心也古德曰乾坤之內宇宙之間中

和俳偕ノ韻末 マンマル十月ハ心ノブンマワシ

応用無方興此衰^{タルヲ}見來^{レハ}和氣滿門楯^ニ請^フ君不^レ借禪余力^ヲ陶^ニ治^{シテ}後生^ヲ成^{セヨ}淨規^ニ

一寶道生號

是歲季秋之末寓於屋島之蘭若有一信士自高松城而來也曰我企望於師之久矣頃日聞飛錫于茲歡喜無量^{ナリ}粵去十三之夕夢^ヨ從于師受法號^ヲ既而得^ニ一軸ノ書^ヲ披而閱^{スルニ}之其首曰一寶焉覺而惟記此兩字余皆失也今日幸陪法席冀賜法號矣予告之曰夫一寶者何謂一心也古德曰乾坤之內宇宙之間中

有一寶秘在形山又大毘盧遮那經曰淨菩提心如

意寶滿世出世勝^{ナリ}有除疑究竟證^ス三昧自利利他因是生凡心有染淨^ヲ謂一寶之心也者非染心也則淨心也淨心者何無相等一如之心也此一如之心則非亡物我泯^レ彼此離憎愛^ニ絕^ニ是非^ニ不能得也故吾佛之設教也始於戒善終於實相^ニ梯登^ノ之差漸階之序^ニ壹^ニ是皆以^テ一^ニ彼此為要物我苟立^ハ則殺戮日生慈愍消^セ焉憎愛是存^{スル時ハ}則竊盜月作^ニ廉潔敗^{セン}焉五戒十善猶尚不得毫釐之存于茲也復何實相之求耶請子無^ニ必^{シモ}求^ニ實相無相之心而唯泯^ニ子^ナ之物我則平

有二寶秘在形山又大毘盧遮那經曰淨菩提心如

意寶^ハ滿^ス世出世^ノ勝^{ナリ}有^ニ除^レ疑究竟證^ス三昧^ヲ自利利他因是^ニ生^ス凡^ソ心^ニ有^ニ染淨^ニ所謂^ル一寶之心也者非染心也則淨心ナリ也淨心者何無相等一如之心ナリ也此ノ一如之心則非亡^ニ物我^ヲ泯^レ彼此^ニ離^ニ憎愛^ニ絶^ニ是非^ニ不能得也故吾佛之設^レ教^ヲ也始^ニ於^ニ戒善^ニ終^フ於^ニ實相^ニ梯登^ノ之差漸階^ノ之序^ニ壹^ニ是皆以^テ一^ニ彼此^ヲ為^ス要^ト物我^ヲ苟^モ立^ハ則殺戮日^ニ生^ナ慈愍消^セ焉憎愛是存^{スル時ハ}則竊盜月^ニ作^ニ廉潔敗^{セン}焉五戒十善猶尚不得毫釐之存于茲也復何實相之求^{メンヤ}耶請^フ子無^ニ必^{シモ}求^ニ實相無相之心而唯泯^ニ子^ナ之物我則平

等之心地可坐而致也然乃豈意祕在形山耶觸目
皆無非心之有焉故佛言心外無法也古稱克念
作聖尚子著力若夫克念到茲則二利之道生一寶
之心成焉復何加乎哉於此以道生為法薛以一寶
表德號云延寶六戊午季冬之吉河陽斗藪沙門釋
淨嚴書于讚國府城坤陬之僑居

延寶七己未年 行年四十一

等ノ之心地可坐而致也然乃豈意祕在形山耶觸目
皆無非心之有焉故佛言心外無法也古稱克念
作聖尚子著力若夫克念到茲則二利之道生一寶
之心成焉復何加乎哉於此以道生為法薛以一寶
表德號云延寶六戊午季冬之吉河陽斗藪沙門釋
淨嚴書于讚國府城坤陬之僑居

延寶七己未年 行年四十一

延寶八庚申歲 行年四十二

和心印闍黎見題現證菴

居偏紫嶽陰晦迹託蕭森現證清涼樂快舒放曠吟
巖雲飛逸思宵漢豁禪心甌茗飲間味時來慰子衿

豫州三角寺銅鐘銘

豫州宇摩郡三角寺也則弘法大師創建之靈區也
萬治庚子之稔金光寺僧道正慨九乳之絶唱告兆
庶之有信遂鳩淨財附之鳧氏石播得中委之筭簾
而今住持闍黎乘齋貢銘辭于余毫敦逼無辭漫為
銘曰南海之瀕豫之宇摩祕宮有恤模彼補陀坎瞰

延寶八庚申歲 行年四十二

和心印闍黎見題現證菴

居偏紫嶽陰晦迹託蕭森現證清涼樂快舒放曠吟
巖雲飛逸思宵漢豁禪心甌茗飲間味時來慰子衿

豫州三角寺銅鐘銘

豫州宇摩郡三角寺也則弘法大師創建之靈區也
萬治庚子之稔金光寺僧道正慨九乳之絶唱告兆
庶之有信遂鳩淨財附之鳧氏石播得中委之筭簾
而今住持闍黎乘齋貢銘辭于余毫敦逼無辭漫為
銘曰南海之瀕豫之宇摩祕宮有恤模彼補陀坎瞰

健毫怪神助、妙句療羈愁、何得陵空翮、翱翔與子遊。

延寶九年酉年 行年四十三

讚州多度郡漫茶羅寺記

夫衆生倒迷、不悟自心之本居、凡庸愚蠢、豈識己身之性德、四流蘇茫、無由問津、三有浩蕩、誰敢歸源、是以世雄能仁、曠世跼蹐、悲焰宅之既焚、遙劫策心慘愴、塵之久埋、玉儀於迦夷羅國之中、誕金體于波

健毫怪神助、妙句療羈愁、何得陵空翮、翱翔與子遊。

延寶九年酉年 行年四十三

讚州多度郡漫茶羅寺記

夫衆生倒迷、不悟自心之本居、凡庸愚蠢、豈識己身之性德、四流蘇茫、無由問津、三有浩蕩、誰敢歸源、是以世雄能仁、曠世跼蹐、悲焰宅之既焚、遙劫策心慘愴、塵之久埋、玉儀於迦夷羅國之中、誕金體于波

不^レ僣^ハ洽^ニ法雨^ヲ於^ニ鷲山^ニ諸乘之弁並能^ク潤^ハ雖^レ言^ハ誠^ニ黔黎^ノ
之福田是^レ蒼生之歸處^{ナリ}豈^ニ若^シ法界宮^ノ中^ニ日尊飛^ハ輪^ノ之
晨自在殿^ノ內^ニ覺王登^ニ極^ニ之日啓^ニ心藏^ヲ而賜^ニ万有^ノ之法
財除^ニ妄闢^ヲ以^ニ示^ニ一道^ヲ之理路^ヲ然^レ乃^チ執^ニ色心實相^ヲ談柄^ニ
則^ニ六大^ノ所遍^ヲ皆我^ノ識身^ニ施理^ヲ智本^ニ具^ニ言筌^ヲ則^ニ十界^ノ所
有^ヲ悉^ニ彼^ノ肝膽^ヲ順^ニ此^ノ教^ヲ也^ニ不^レ超^ニ三劫^ヲ而^レ立^ニ滿^ニ三句^ヲ勲績^ヲ
告^ニ其^ノ益^ヲ也^ニ非^レ泛^ニ六舟^ヲ邊^ニ濟^ニ三六趣^ヲ苦艱^ヲ語^ニ厥^ノ溥遍^ヲ兮^ニ三
昧^ノ祕^ニ咒^ヲ誇^ニ塵滴^ヲ之^ニ惟^ニ一^ヲ言^ニ彼^ノ攝^ニ藏^ヲ兮^ニ一^ヲ阿^ノ密^ニ密^ニ言^ヲ吞^ニ山
海^ヲ而^レ不^レ億^ニ大^ヲ而^レ又^ニ太^ヲ晒^ニ舜^ヲ若^シ多^ノ神^也之^ニ猶^ニ微^ニ高^ヲ而^レ復
高^ニ晚^ニ藕^ヲ迷^ニ盧^ヲ之^ニ極^ニ卑^ヲ皇^ヲ矣^ニ哉^ニ唯^ニ佛^ノ果^ニ地^ノ之^ニ談^ニ邃^ヲ矣^ニ哉^ニ

即事而真之門雖^ニ一極^ノ之逸翮^ニ尚未^レ游^ハ彼^ノ大空^ニ雖^ニ三
自^ノ之雅韻^ノ何^ニ敢^ニ共^ニ絕調^ヲ曰^ニ若^シ有^ニ一箇^ノ縱聖^ノ號^ヲ言^ニ大
遍照金剛^ノ天降^ニ異物^ヲ阿孃感^ニ梵儀^ヲ之駕^ヲ雲^ニ人稱^ニ神童^ノ
朝使駭^ニ護世^ノ之執^ヲ蓋^ニ勃陀^ヲ入^ニ夢^ヲ八片^ノ之荷承^ヲ踏^ニ索^ヲ多
凝相^ニ一團^ノ之泥怡^ニ顏^ヲ況^ニ又^ニ游^ニ學^ヲ儒肆^ヲ則^ニ貫^ニ羣籍^ヲ而^レ過
自^ノ成^ニ誦^ニ念^ヲ持^ニ空藏^ヲ則^ニ歷^ニ衆洞^ヲ而^レ捐^ニ軀^ヲ求^ニ就^ニ遂^ニ則^ニ及^ニ於^ニ
弱冠^ノ之年舍^ニ塵俗^ヲ以^ニ遵^ニ大路^ヲ邁^ニ于^ニ而立^ニ之日過^ニ滄溟^ヲ
而^レ訪^ニ玄珠^ヲ觀^ニ察^ニ檢^ニ船^ヲ得^ニ片簡^ヲ則^ニ允^ニ許^ニ存^ニ問^ヲ給^ニ糧^ヲ嚴^ニ七
珍^ヲ斯^ニ逐^ニ迎^ニ天旨^ヲ垂^ニ慈^ヲ且^ニ安^ニ置^ニ宣陽^ヲ之坊^ヲ大使^ニ諗^ニ歸^ヲ猶
留^ニ止^ニ西明^ノ之院^ニ茲^ニ乃^チ尋^ニ青龍^ノ之真源^ヲ則^ニ洞^ニ酌^ニ三密^ヲ之

不^レ僣^ハ洽^ニ法雨^ヲ於^ニ鷲山^ニ諸乘之弁並能^ク潤^ハ雖^レ言^ハ誠^ニ黔黎^ノ
之福田是^レ蒼生之歸處^{ナリ}豈^ニ若^シ法界宮^ノ中^ニ日尊飛^ハ輪^ノ之
晨自在殿^ノ內^ニ覺王登^ニ極^ニ之日啓^ニ心藏^ヲ而賜^ニ万有^ノ之法
財除^ニ妄闢^ヲ以^ニ示^ニ一道^ヲ之理路^ヲ然^レ乃^チ執^ニ色心實相^ヲ談柄^ニ
則^ニ六大^ノ所遍^ヲ皆我^ノ識身^ニ施理^ヲ智本^ニ具^ニ言筌^ヲ則^ニ十界^ノ所
有^ヲ悉^ニ彼^ノ肝膽^ヲ順^ニ此^ノ教^ヲ也^ニ不^レ超^ニ三劫^ヲ而^レ立^ニ滿^ニ三句^ヲ勲績^ヲ
告^ニ其^ノ益^ヲ也^ニ非^レ泛^ニ六舟^ヲ邊^ニ濟^ニ三六趣^ヲ苦艱^ヲ語^ニ厥^ノ溥遍^ヲ兮^ニ三
昧^ノ祕^ニ咒^ヲ誇^ニ塵滴^ヲ之^ニ惟^ニ一^ヲ言^ニ彼^ノ攝^ニ藏^ヲ兮^ニ一^ヲ阿^ノ密^ニ密^ニ言^ヲ吞^ニ山
海^ヲ而^レ不^レ億^ニ大^ヲ而^レ又^ニ太^ヲ晒^ニ舜^ヲ若^シ多^ノ神^也之^ニ猶^ニ微^ニ高^ヲ而^レ復
高^ニ晚^ニ藕^ヲ迷^ニ盧^ヲ之^ニ極^ニ卑^ヲ皇^ヲ矣^ニ哉^ニ唯^ニ佛^ノ果^ニ地^ノ之^ニ談^ニ邃^ヲ矣^ニ哉^ニ

即事而真之門雖^ニ一極^ノ之逸翮^ニ尚未^レ游^ハ彼^ノ大空^ニ雖^ニ三
自^ノ之雅韻^ノ何^ニ敢^ニ共^ニ絕調^ヲ曰^ニ若^シ有^ニ一箇^ノ縱聖^ノ號^ヲ言^ニ大
遍照金剛^ノ天降^ニ異物^ヲ阿孃感^ニ梵儀^ヲ之駕^ヲ雲^ニ人稱^ニ神童^ノ
朝使駭^ニ護世^ノ之執^ヲ蓋^ニ勃陀^ヲ入^ニ夢^ヲ八片^ノ之荷承^ヲ踏^ニ索^ヲ多
凝相^ニ一團^ノ之泥怡^ニ顏^ヲ況^ニ又^ニ游^ニ學^ヲ儒肆^ヲ則^ニ貫^ニ羣籍^ヲ而^レ過
自^ノ成^ニ誦^ニ念^ヲ持^ニ空藏^ヲ則^ニ歷^ニ衆洞^ヲ而^レ捐^ニ軀^ヲ求^ニ就^ニ遂^ニ則^ニ及^ニ於^ニ
弱冠^ノ之年舍^ニ塵俗^ヲ以^ニ遵^ニ大路^ヲ邁^ニ于^ニ而立^ニ之日過^ニ滄溟^ヲ
而^レ訪^ニ玄珠^ヲ觀^ニ察^ニ檢^ニ船^ヲ得^ニ片簡^ヲ則^ニ允^ニ許^ニ存^ニ問^ヲ給^ニ糧^ヲ嚴^ニ七
珍^ヲ斯^ニ逐^ニ迎^ニ天旨^ヲ垂^ニ慈^ヲ且^ニ安^ニ置^ニ宣陽^ヲ之坊^ヲ大使^ニ諗^ニ歸^ヲ猶
留^ニ止^ニ西明^ノ之院^ニ茲^ニ乃^チ尋^ニ青龍^ノ之真源^ヲ則^ニ洞^ニ酌^ニ三密^ヲ之

清流跨白象之淨者。頓盪五障之昏穢。開覺化兮接
普門之法帝。傳心印兮膺遍照之的嗣。雕金玉則地
墨之身智。月圓運丹青則山毫之人尊星。羅彩鷁遊
瀟湘載而歸之者。遮那真教金杵獅雲點著而識者
瑜祇勝岷至若清涼重席列宗名縉咸卷降旗乾臨
禱雨諸弟翹楚或見真龍現生悉地之驗斯時雷震
即身成佛之宗此日獅吼教王護國之寺憶鷲嶺儀
五大忿怒各摧伏一方冤讐真言修法之場衛馬臺
國兩界漫荼更祝禱一載豐稔吾道繁衍一目高祖
之是營此教勝上彰自大師之斯力凡夫攀附條末

游泳流派之屬鴻德豈不之思湛恩詎不之酬讚州
多度郡也者曩祖生緣之地也是故就彼粉榆創建
梵閣安醫王善逝之尊容手揮金管寫最勝妙典之
真文又於歸朝之後重造真言三密之精藍更刻遍
知七軀之聖像号之曼荼羅寺事具寬喜教宣自爾
以降日元果曰仁海僉慕曩躡而練修或成尊或親
嚴並仰遺蹤以經行万國望風而歸往四來繼踵以
被化寄居則有西行法師寓懷則有水荃岡詠雖然
屢遷霜露數遭兵賊雕鏤軒頓成孤免之棲粉牆
玉砌變為瓦礫之區武將生駒氏鎮斯國之辰其家

清流一跨^{アツトハ}白象ノ之淨香ニ頓ニ盪ニ五障ノ之昏穢ヲ開ニ覺化ニ接ニ
普門之法帝ニ傳ニ心印ヲ膺ニ遍照之的嗣ニ雕ニ金玉ヲ則ニ地
墨之身智ヲ月圓運ニ丹青ヲ則ニ山毫ノ之人尊星ヲ羅ニ彩鷁遊
瀟湘ニ載ニ而歸ニ之者ヲ遮那ノ真教金杵獅雲ニ點著ニ而識ス者ノハ
瑜祇勝岷至若清涼重席列宗名縉咸卷降旗乾臨
禱雨諸弟翹楚或見真龍現生悉地之驗斯時雷震
即身成佛之宗此日獅吼教王護國之寺ニハ憶ニ鷲嶺ノ儀
五大忿怒各摧伏シ一方ノ冤讐ヲ真言修法之場ニハ馬臺
國ニ兩界ノ漫荼更ニ祝禱ス一載豐稔吾道ノ繁衍ヲ一ハラ因ニ高祖
之是營ニ此教勝上ニ彰レタリ自ニ大師ノ之斯力ニ凡ソ夫攀ニ附ニ條末ニ

游泳^{タクヒ}流派^{スル}之屬鴻德豈不^ハ之思^{チン}湛恩詎不^ハ之酬^ム讚州
多度郡也者曩祖生緣之地也是故就彼粉榆創建
梵閣安醫王善逝之尊容手揮金管寫最勝妙典之
真文又於歸朝之後重造真言三密之精藍更刻遍
知七軀之聖像号之曼荼羅寺事具寬喜教宣自爾
以降日元果曰仁海僉慕曩躡而練修或成尊或親
嚴並仰遺蹤以經行万國望風而歸往四來繼踵以
被化寄居則有西行法師寓懷則有水荃岡詠雖然
屢遷霜露數遭兵賊雕鏤軒頓成孤免之棲粉牆
玉砌變為瓦礫之區武將生駒氏鎮斯國之辰其家

三野 覽茲蕪穢不勝悲感界數頃之荒野營三
間之佛宇施腴田而食輪是轉起禪龕而僧居稍安
即今住持阿遮梨耶有盛不難二万里之煙浪來扣寡
聞之霧心余嘗歷彼境行劇勝槩五嶽南聳擅鍾海
國之秀麗孤城北峙寔為外藩之鎮衛蒼蘚衣如封捨
身之崖猶存碧巖鋒聯修法之峯特出鸞梭春織時
和梵唄之餘韻葦機秋促自冷禪坐之睡蓋鹿依
叢呦呦之鳴告宵鳥投宿啞啞之音警晨寢靈壤
之為甲也何機才之輒盡焉爰以不負知己無思招
佗譏謗叨錄舊聞以塞厚望云昔延寶辛酉季夏之

吉稟瑜伽乘教沙門淨嚴欽識

撰州天滿鄉大融寺銅鐘銘

鳧氏心匠幻成奇物非石非播無杵無鬱警入禪聖
激通界佛冥府迴徹酷患疾祇其一禽魚盪夢龍鬼
聳聰德音無已廣大融通非有實有出空入空冀斯
玄功遠垂亡窮其二皇祚鞏固帝圖遐昌山砥河帶
地久天長凡厥同志農工商極夫來際其樂無央
其三

撰州尊鉢里多羅山若王寺緣起

夫性然實際萬象各住其自性雖言觸處皆是悅爾

三野 覽茲蕪穢不勝悲感界數頃之荒野一宮三
間之仏宇一施腴田而食輪是轉起禪龕而僧居稍安
即今住持阿遮梨耶有盛不難二万里之煙浪來扣寡
聞之霧心余嘗歷彼境行閱勝槩五嶽南聳擅鍾海
國之秀麗孤城北峙寔為外藩之鎮衛蒼蘚衣如封捨
身之崖猶存碧巖鋒聯修法之峯特出鸞梭春織時
和二梵唄之余韻葦機秋促自除禪坐之睡蓋鹿依
叢呦呦之鳴告宵鳥投宿啞啞之音警晨寢靈壤
之為甲也何機才之輒盡焉爰以不負知己無思招
佗譏謗叨錄舊聞以塞厚望云昔延寶辛酉季夏之

吉稟瑜伽乘教沙門淨嚴欽識

撰州天滿鄉大融寺銅鐘銘

鳧氏心匠幻成奇物非石非播無杵無鬱警入禪聖
激通界佛冥府迴徹酷患疾祇其一禽魚盪夢龍鬼
聳聰德音無已廣大融通非有實有出空入空冀斯
玄功遠垂亡窮其二皇祚鞏固帝圖遐昌山砥河帶
地久天長凡厥同志農工商極夫來際其樂無央
其三

撰州尊鉢里多羅山若王寺緣起

夫性然實際萬象各住其自性雖言觸處皆是悅爾

妄鄉羣類競取其名相、無不歷法悉非計人我、而彼此迴隔、燭法執而理智咸暗茫、遊子跋涉六趣之原、隱慄々愁客繫縛三界之牢獄、膠固之則竊猿、非喻巡轉之則磨蟻何比、身乃毘盧遮那世尊往昔大悲之誓願無歇、未來無終之哀憐逾深、且祕本地之遍照、屢垂迹化之廣濟、若入蓮華定門、則十方佛利無利而不現身、四身妙應無應而不施、益三毒之煩七難之灾、稱念之則除滅、四倒之迷五欲之垢、觀行之得解脫、若住寶處三昧、則為利顯機、則暫說百億部經、欲演祕教、則遂占第三重門、羯磨金剛表成辨

自利利他之妙業、寶鉢多羅標容受世間出世之機、宜是能仁牟尼之教導、又觀世薩埵之利濟也、曰若攝州尊鉢里多羅山若王寺也者、八幡大神降化之地、行基菩薩草創之攸也、初行基師暇、日悠然遠望北嶺、奇雲飄飄、光色過常、基謂皇玄聖之遊化、耶將靈神之窟宅、耶迺往而止、經宿持念、寢夢異人來告、而言我、是譽田天皇之靈也、名曰護國靈驗威神大自在王菩薩、我不可計劫來垂迹於三有之中、和光於六道之衢、善巧妙權、衛世利人、無量無邊、斯地者是佛法有緣之靈區也、所以爾者、曩日神功皇后親

妄鄉ニハ群類競テ取其名相ヲ無レシト云コト歴法ニ悉ク非ニ計ニシテ人我ヲ而彼此迴隔ニ燭ニ法執ニ而理智咸暗茫々タル遊子跋涉ニ六趣之原、隱慄々愁客繫縛ニ三界之牢獄ヲ膠固之則竊猿モ非ス
レ喻ニ巡轉スルコトハ之則磨蟻何ニ比セン
粵ニ乃チ毘盧遮那世尊往昔大悲之誓願無歇ツクルコト未來無終之哀憐逾深ニ且祕ニ本地ノ之遍照ニ屢垂迹化ノ之廣濟ヲ若シ入ニ蓮華定門ニ則十方ノ佛利無利トシテ而不ト現身ヲ四身妙應無二応ニ而不レ施レ益三毒之煩七難ノ之灾稱念スレハ之則除滅シ四倒之迷五欲之垢觀行スレハ之得ニ解脫ニ若住スレハ寶處三昧ニ則為ニ利ニ顯機ニ則暫ク說ニ百億部ノ經ヲ欲演ニ祕教ヲ則遂ニ占ニ第三重門ニ羯磨金剛ハ表ニ成辨スルコトヲ

自利利他ノ之妙業ヲ寶鉢多羅ハ標容受スルコトヲ世間出世之機宜ニ是能仁牟尼之教導又觀世薩埵之利濟ナリ也曰若攝州尊鉢里多羅山若王寺ハ也者八幡大神降化之地行基菩薩草創之攸也初行基師暇ノ日悠然遠望ニ北嶺ヲ奇雲飄飄光色過常ニ基謂ク皇玄聖之遊化耶將靈神ノ之窟宅ヲ耶迺往而止ニ經宿持念スルニ寢夢ニ異人來告テ而言我ハ是譽田天皇ノ之靈ナリ也名ケテ曰護國靈驗威神大自在王菩薩我不可計劫ヨリ來垂迹於三有ノ之中ニ和光ヲ於六道ノ之衢ニ善巧妙權ヲ以テマホ衛世利人無量無邊ニ斯ノ地者
是佛法有緣之靈區也所以ハ爾者曩日神功皇后親

征新羅之時幸得釋迦大師寶鉢而頂戴尊奉於斯處造大石室櫃而藏之亦佛寶鏡等之衆物焉汝取以度群迷也行基覺則歡喜扑躍發掘石窟果如所夢後遂達於天聰皇帝敕基使創梵閣殿塔門樓廊廂階陛輪突駭眼基自刻十一面觀自在菩薩像并不動大明王毗沙門天王像各一軀併于佛鉢奉安大殿供養持念以增金輪之威福饒蒼生之利益又請熊野三所之神為永世三寶之鎮衛也寺名若王專本于茲又邑名尊鉢山曰多羅則由佛鉢之在也夫佛鉢所在之方處有無盡之神用則蓮華面

經中佛豫詳說而巡歷諸州遂來于斯豈非吾邦之大幸耶況又寶鉢則釋迦佛之三昧耶身也寶鉢所在則與如來現在之不異有意智者孰敢外之雖然時世改變風俗澆漓家教陵夷殿閣頽毀剝遭天正際亂兵數行寶貝多見劫奪齋田盡所取掠唯餘寺院四至之境耳又文祿年中官使檢田之時僧藍之地皆為公田悉課貢稅釋迦院主某甲嗟佛光之匿耀慨福庭之就荒弃古昔之地卜東山之足繼將絕之緒興殆廢之事云寔惟大聖世尊之教未殄觀在大士之益猶存時運若余何法燈之不重輝于世

征新羅之時幸得釋迦大師寶鉢而頂戴尊奉於斯處造大石室櫃而藏之亦佛寶鏡等之衆物焉汝取以度群迷也行基覺則歡喜扑躍發掘石窟果如所夢後遂達於天聰皇帝敕基使創梵閣殿塔門樓廊廂階陛輪突駭眼基自刻十一面觀自在菩薩像并不動大明王毘沙門天王像各一軀併于佛鉢奉安大殿供養持念以增金輪之威福饒蒼生之利益又請熊野三所之神為永世三寶之鎮衛也寺名若王專本于茲又邑名尊鉢山曰多羅則由佛鉢之在也夫佛鉢所在之方處有無盡之神用則蓮華面

經中佛豫詳說而巡歷諸州遂來于斯豈非吾邦之大幸耶況又寶鉢則釋迦佛之三昧耶身也寶鉢所在則與如來現在之不異有意智者孰敢外之雖然時世改變風俗澆漓家教陵夷殿閣頽毀剝遭天正際亂兵數行寶貝多見劫奪齋田盡所取掠唯餘寺院四至之境耳又文祿年中官使檢田之時僧藍之地皆為公田悉課貢稅釋迦院主某甲嗟佛光之匿耀慨福庭之就荒弃古昔之地卜東山之足繼將絕之緒興殆廢之事云寔惟大聖世尊之教未殄觀在大士之益猶存時運若余何法燈之不重輝于世

俗或變豈佛鉢之不再彰乎哉今歎舊籍之遺其
焚且錄先志之所曾傳昔延寶九稔歲舍辛酉冬十
月之吉

天和二壬戌年行年四十四

讚州出釋迦峯虛空藏堂助緣緇素名簿序

原夫斯峯也則能寂世尊隨感應現之靈嶽遍照金
剛捨身練行之勝場也是故空藏如意之益十方周
瞻即獲聞持之利千載之下永傳雖余時運不齊寺

俗或ハ変セハ豈ニ仏鉢ノ之不再シヤ再ニ彰ニヘレ乎哉今歎ニ旧籍之遺ニコトヲ兵
燹ニ録ニスト先志ノ之所ニ曾傳ニシ時ニ延寶九稔歲舍辛酉冬十
月之吉

天和二壬戌年 行年四十四

讚州出釋迦峯虛空藏堂助緣緇素名簿序

原夫斯ノ峯ハ也則能寂世尊隨感應現之靈嶽遍照金
剛捨身練行之勝場也是故空藏如意ノ之益十方周
瞻即獲聞持ノ之利千載之下永傳雖レトモ余時運不齊寺

像或有興替教風稍廢士庶少有歸信餘殿堂頽
毀風雪丘陵尊軀損壞彩飾盡削貧道三界無家況
有僧石之儲一鉢常匱唯吹錢囊塵雖希興造却慨
不及於果遍扣四遠之都鄙博乞万人之資助營一
宇之小殿奉万德之薩埵然乃晨昏香燈長時不絕
日久禪誦永世無懈縱不修念何無自業自得之善
果況有迴向誰疑華報果報之鉅益乃至士農工商
齊飲饌乳之珍味鱗蹄角牙同遊阿閼之寶臺矣天
和二年龍集壬戌春三月廿一日

高野山寶性院第十九世朝遍法印行狀

像或ハ有ニ興替^{タイ}教風^{ヤウヤク}稍^{マレ}廢^{マレ}士庶少^{ナリ}有^二歸信^一ノモノ^レ餘^レ殿堂頽
毀^{シテ}風雪^ハ丘陵^キ尊軀損壞^{シテ}採飾^{シテ}盡^ク削^ス貧道^ニ三界^ニ無家^ニ況^ヤ
有^ニ僧石^ニ之儲^ハ一鉢^ハ常^ニ匱^{トモ}唯^ク吹^ク錢囊^ニ塵^ニ雖^レ希^ニ興造^一却^テ慨^ク
不^レ及^ク於^ニ果^ニ遍^ク扣^ク四遠^ノ之都鄙^ニ博^ク乞^フ万人^ノ之資助^一營^ニ一
宇^ノ之小殿^ニ奉^ス万德^ノ之薩埵^ニ然^{レハ}乃^ニ晨昏^ノ香燈^ニ長時^ニ不^レ絶^ヘ
日久^ノ禪誦^ニ永世^ニ無^レ懈^{トモ}縱^ヒ不^ニ修念^一何^ニ無^ニ自業自得^ノ之善
果^ニ況^ヤ有^ニ迴向^一誰^レ疑^ハ華報果報^ノ之鉅益^ニ乃至^ニ士農工商
齊^ク飲^キ饌乳^ノ之珍味^ニ鱗蹄角牙^ニ同遊^ニ阿閼^ノ之寶臺^ニ矣^天
和二年龍集壬戌春三月廿一日

高野山寶性院第十九世朝遍法印行狀

第二百四十七代檢校執行法印大和尚位朝遍攝
州大坂人也父讚州久保氏母城州竹内氏

後陽成皇帝慶長元年丙申春二月十五辰時而生
神相岐嶷天機穎脫同十一年父枉遭讒害因而避
難于斯山謁朝印闍黎寶龜院住持之講筵印一見則領
之明年之春許以祝髮授以禁戒自來力習密乘焚
膏繼晷後受榮雄闍黎之委附住釋迦文院自寬永
之初當山承仕号行不惠シタカ寺務之嚴命無肯フコト僧統之
制令驕奢日積風範月替至明曆丙申之冬寺僧與
承仕爭掌鎮守神祠之戸鑰之事而訟公庭遂使万

治戊戌之秋幕下降命擯学徒之四傑罪堂衆之四
凶於是衆推遍師與長榮高室院主使赴武府師屢造于
寺社總管井上氏板倉氏兩使傾竭肝膽同庚子之
夏有旨使遍師住寶性院榮師住無量壽院以為滿
寺僧錄司号主之時兩刺史新制九條之禁法折サタ鷸蚌
之獄其目皆輕蔑舊則以薪加火遍師為メニ後害不
顧危難考覈陳編愁シタカ古法兩使君稍納之寬文二
年與承仕對論公府彼之所陳一事不立如是數回
同三年冬幕下降于台旨定於規式凡兩章三十六
條盡遵舊章是偏遍師用力之所致也同六年十月

第二百四十七代檢校執行法印大和尚位朝遍ハ撰
州大坂人也父讚州久保氏母城州竹内氏

後陽成皇帝慶長元年丙申春二月十五辰時而生
神相岐嶷天機穎脫同十一年父枉遭讒害因而避
難于斯山謁朝印闍黎寶龜院住持之講筵印一見則領
之明年之春許以祝髮授以禁戒自來力習密乘焚
膏繼晷後受榮雄闍黎之委附住釋迦文院自寬永
之初當山承仕号行不惠シタカ寺務之嚴命無肯フコト僧統之
制令驕奢日積風範月替至明曆丙申之冬寺僧與
承仕爭掌鎮守神祠之戸鑰之事而訟公庭遂使万

治戊戌之秋幕下降命擯学徒之四傑罪堂衆之四
凶於是衆推遍師與長榮高室院主使赴武府師屢造于
寺社總管井上氏板倉氏兩使傾竭肝膽同庚子之
夏有旨使遍師住寶性院榮師住無量壽院以為滿
寺僧錄司号主之時兩刺史新制九條之禁法折サタ鷸蚌
之獄ウツタヘ其目皆輕蔑舊則以薪加火遍師為メニ後害不
顧危難考覈陳編愁シタカ古法兩使君稍納之寬文二
年與承仕對論公府彼之所陳一事不立如是數回
同三年冬幕下降于台旨定於規式凡兩章三十六
條盡遵旧章是偏遍師用力之所致也同六年十月

受寺務職同九年十一月辭職明年庚戌正月以老
且病退讓僧錄司于信龍閣黎辛亥正月二十六日
恬然而化壽七十六歲

讚州鵜足郡万恒寺銅鐘銘并叙

粵有勝區名曰佛光青嶂背聳松濤混午鼎之吟玄
溟石湛漁謳和夕梵之韻長川奔其足蒼龍之勢彰
祕水之綿焉永洽孤城鎮其胸鐵甕之固示法壑之
確乎不拔万恒嘉名早立傳上乘之燈于季葉八幡
靈神如在施湛恩之澤于兆民況復時遇明君之
傾心佛乘竭誠神明幸得黎下之展忱檀信聽教師

友山前土器之鄉有一信士姓田村諱易全久信即
成佛之教門素飲大菩薩之德光常憤華鯨之不告
寅夕且念潮音之周警蠢動是故新成鉅鐘銘以密
言告夫羣眠極其極楚復欲迴斯不盡之利以祝
國君之壽福并資先方本源淨清先妣桂林壽香之
覺道也住持闍黎宥仙不難險遠來扣華局苦需銘
詞不得敢聯倉卒信毫其辭曰於鬱扶桑佛日云升
教禪俱宣顯秘競興就中有灼遮那上乘累祖瀉瓶
奕世繼燈其量明君綱紀風行草偃掃蕩頽俗信能
增韻法泉洶湧厥流哀々遐邇懷德投歸忘反其貳

受寺務職同九年十一月辭職明年庚戌正月以老
且病退讓僧錄司于信龍閣黎辛亥正月二十六日
恬然而化壽七十六歲

讚州鵜足郡万恒寺銅鐘銘并叙

粵有勝區名曰佛光青嶂背聳松濤混午鼎之吟玄
溟石湛漁謳和夕梵之韻長川奔其足蒼龍之勢彰
祕水之綿焉永洽孤城鎮其胸鐵甕之固示法壑之
確乎不拔万恒嘉名早立傳上乘之燈于季葉八幡
靈神如在施湛恩之澤于兆民況復時遇明君之
傾心佛乘竭誠神明幸得黎下之展忱檀信聽教師

友山前土器之鄉有一信士姓田村諱易全久信即
成仏之教門素飲大菩薩之德光常憤華鯨之不告
寅夕且念潮音之周警蠢動是故新成鉅鐘銘以密
言告夫羣眠極其極楚復欲迴斯不盡之利以祝
國君之壽福并資先方本源淨清先妣桂林壽香之
覺道也住持闍黎宥仙不難險遠來扣華局苦需銘
詞不得敢聯倉卒信毫其辭曰於鬱扶桑佛日云升
教禪俱宣顯秘競興就中有灼遮那上乘累祖瀉瓶
奕世繼燈其量明君綱紀風行草偃掃蕩頽俗信能
增韻法泉洶湧厥流哀々遐邇懷德投歸忘反其貳

突元倉嶺東構北折神界福祿佛濟煩熱祠壇重歲
繡栢藻檣僧居邁埃雪清玉澤其參蒲牢絕韻無由
攬眠雅士抱素執信石堅冶氏範就神呪響傳仰報
鴻德俯拔倒懸其四蕩々鉅益周ニ彼ノ無告ニ地墨モ何尽
山毫豈録佛光神光常明常燭衛爾候王旁覃臣僕
其五昔天和二歲在壬戌中冬廿有三沙門淨嚴
播州印南郡平庄報恩寺之記

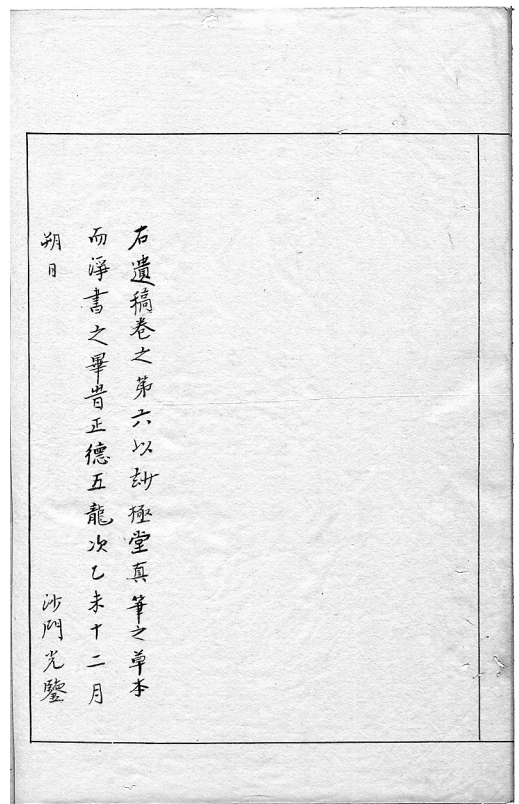
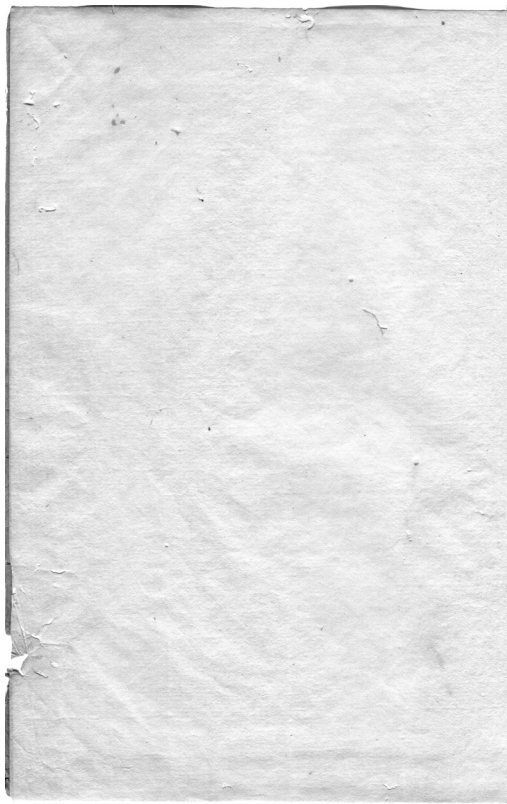
欽考舊貫夫當寺則真言上乘興隆之仁祠觀音大
聖施化之勝嶺也初元明皇帝御寓之日和銅六
年癸丑慈心上人創建梵宇安醫王善逝為鎮國道

場又加不動金剛多聞天王

突元タル倉嶺東ニ構ヘ北ニ折ク神界ハ福祿佛濟煩熱祠壇重歲
繡栢藻檣スヒモトクエケルツカハシラ僧居邁埃雪清玉澤コヘテテケルツカハシラ其參蒲牢絕韻無由
攬眠雅士抱素執信石堅冶氏範就神呪響傳仰報
鴻德俯拔倒懸其四蕩々鉅益周ニ彼ノ無告ニ地墨モ何尽
山毫豈録佛光神光常明常燭衛爾候王旁覃臣僕
其五昔天和二歲在壬戌中冬廿有三沙門淨嚴
播州印南郡平庄報恩寺之記

欽考舊貫夫當寺則真言上乘興隆之仁祠觀音大
聖施化之勝嶺也初元明皇帝御寓之日和銅六
年癸丑慈心上人創建梵宇安醫王善逝為鎮國道

場又加不動金剛多聞天王



右遺稿卷之第六以妙極堂真筆之草本
而淨書之畢時正德五龍次乙未十二月
朔日
沙門光鑒

(白丁)



「⑥裏表紙

(てらつ まりえ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)
(せきぐち しずお 歴史文化学科)